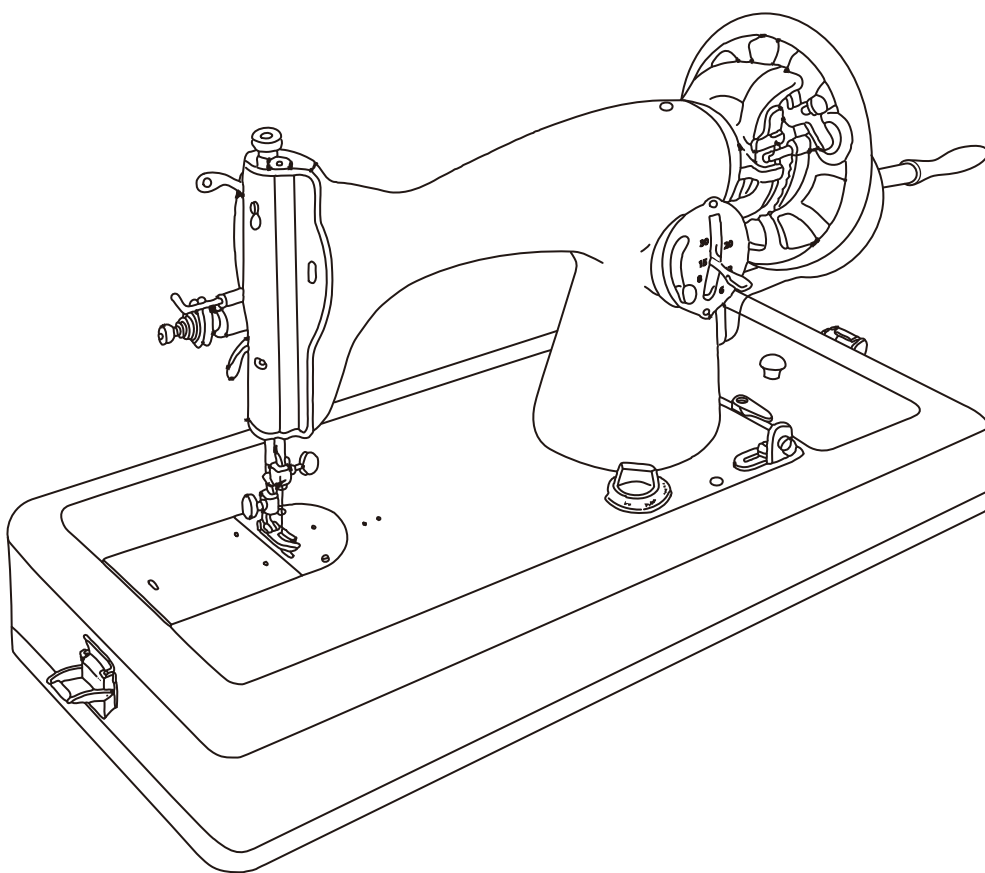


# 取扱説明書

型式：HA-H・II シリーズ

Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。



**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。  
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。  
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見ることができるよう、必ず保管してください。

# もくじ

## お使いになる前にお読みください

安全上のご注意	-----	P2 ~ 3
取り扱いのお願い	-----	P3
各部の名まえ	-----	P4
木製カバー	-----	P5
付属品	-----	P6

## 操作の仕かた

押え	-----	P7 ~ 8
縫うための準備	-----	P8
ハンドルの使いかた	-----	P9

## 縫う前の準備

ボビンの取り出しかた	-----	P10
下糸の巻きかた	-----	P11 ~ 15
上糸のかけかた	-----	P16 ~ 18
下糸の引き上げかた	-----	P19
針、糸、生地の関係	-----	P19
送り調節	-----	P20
送り歯ドロップ装置	-----	P21

## 縫ってみる

直線縫い	-----	P22 ~ 23
糸調子の合わせかた	-----	P24
返し縫い	-----	P25
厚地を縫う	-----	P25
縫い方向を変える	-----	P26

## お手入れ

針の取り替えかた	-----	P26 ~ 27
正しい針の選びかた	-----	P27
注油	-----	P27 ~ 29
カマのそうじ	-----	P30 ~ 32

## その他

困ったときは…	-----	P33
仕様	-----	P34
修理サービス要領	-----	P34
サービス工場・ご相談先	-----	P34
保証書	-----	裏表紙

# 安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。






この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。












以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。






- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。
---	---	---	--

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性をうながす記号		行為を「禁止」する記号		行為を「指示」する記号
				
火災の原因になります	ケガの危険性があります	禁止	分解禁止	必ずすること




 <b>注意</b>	 	ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。
<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安定な場所に置かないでください。</li> <li>動作中に、はずみ車・天びん・下糸巻き軸・針などの鋭利な部品に手を触れないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。</li> <li>曲った針は使わないでください。 針が折れ、ケガの原因になります。</li> <li>すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。</li> <li>縫製中に生地を無理に引っばったり押したりしないでください。 手や指がはさまる、針が刺さるなどケガの原因になります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火の気のあるもののそばでは使用しないでください。 (火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。</li> <li>交換した針を放置しないでください。</li> <li>お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。</li> <li>屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。 部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。</li> <li>ミシン本体は比較的重量があり(16kg)持ち運びされる際はカバーをかぶせ、ロックが完全であるか十分に確認して持ち運びください。 他の部分を持つとこわれたり、滑って落としケガの原因になります。</li> <li>ミシン本体は16kgあります。ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。 ケガの原因になります。</li> <li>カバー留め金が確実にロックできない場合はカバー取っ手を持ち上げないでください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ミシンを持ち上げや、下ろす際に、ミシンとカバーに指を挟まないようにしてください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを回す際は、カバーやカバー留め具に手が当たらないように注意してください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを速く回し過ぎたり、乱暴に扱わないでください。 ハンドル固定ピンが外れてミシンが空回りしてケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車や針周辺に手や物を置かない。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車の内側の穴には、指や物などを入れたまま動かさない。</li> <li>安定した場所に設置する、作業スペースを十分に確保する周囲に物を置かない。 はずみ車や針など動く部分が露出し、ケガの原因になります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン本体内部に異物を入れたりドライバーなどを差し込まないでください。 故障の原因になります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンを持ち上げや、下ろす際に、ミシンとカバーに指を挟まないようにしてください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを回す際は、カバーやカバー留め具に手が当たらないように注意してください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを速く回し過ぎたり、乱暴に扱わないでください。 ハンドル固定ピンが外れてミシンが空回りしてケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車や針周辺に手や物を置かない。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車の内側の穴には、指や物などを入れたまま動かさない。</li> <li>安定した場所に設置する、作業スペースを十分に確保する周囲に物を置かない。 はずみ車や針など動く部分が露出し、ケガの原因になります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li></li> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の手が届かない場所に保管してください。 付属品や針、押えなどの突起でケガの原因になる恐れがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン本体は16kgあります。ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。 ケガの原因になります。</li> <li>カバー留め金が確実にロックできない場合はカバー取っ手を持ち上げないでください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ミシンを持ち上げや、下ろす際に、ミシンとカバーに指を挟まないようにしてください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを回す際は、カバーやカバー留め具に手が当たらないように注意してください。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>ハンドルを速く回し過ぎたり、乱暴に扱わないでください。 ハンドル固定ピンが外れてミシンが空回りしてケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車や針周辺に手や物を置かない。 ケガをする恐れがあります。</li> <li>はずみ車の内側の穴には、指や物などを入れたまま動かさない。</li> <li>安定した場所に設置する、作業スペースを十分に確保する周囲に物を置かない。 はずみ車や針など動く部分が露出し、ケガの原因になります。</li> </ul>

 <b>警告</b>	 死亡の恐れがあります。	
 死亡の原因 となります。	特にお子様は袋などの梱包材やミシンの付属品、ミシンからはずした部品は絶対に口に入れないでください。 窒息など身体に影響をおよぼす恐れがあります。 誤って油を飲んだときは、『鉱物油』であることを伝えて医師に治療をお受けください。	
	袋などの梱包材をかぶらないでください。 窒息をする恐れがあります。	

## 取り扱いのお願い

永くお使い頂くため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 <b>注意</b>	 	ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。
---	---	------------------------

### ■曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

・針穴に刺さらず、折れた針が飛びケガをする恐れがあります。 ・押えや針板に傷を付け、糸調子が合わなくなります。

### ■このミシンで縫えないもの

つぎのものはこのミシンでは縫えません。針などに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。

・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網(漁網など) ・はずみ車(ハンドル)を手で回しても、針が刺さりにくい生地、厚さ6mm以上の生地

### ■直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

### ■糸絡みのとき、糸・生地を引っばらない

針や部品を破損します。

### ■ミシン表面のお手入れ

汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたくしぼり、乾いた布で仕上げてください。

\* ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

### ■説明書で指定された以外の分解・改造はしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。

### ■長期間ご使用にならないとき

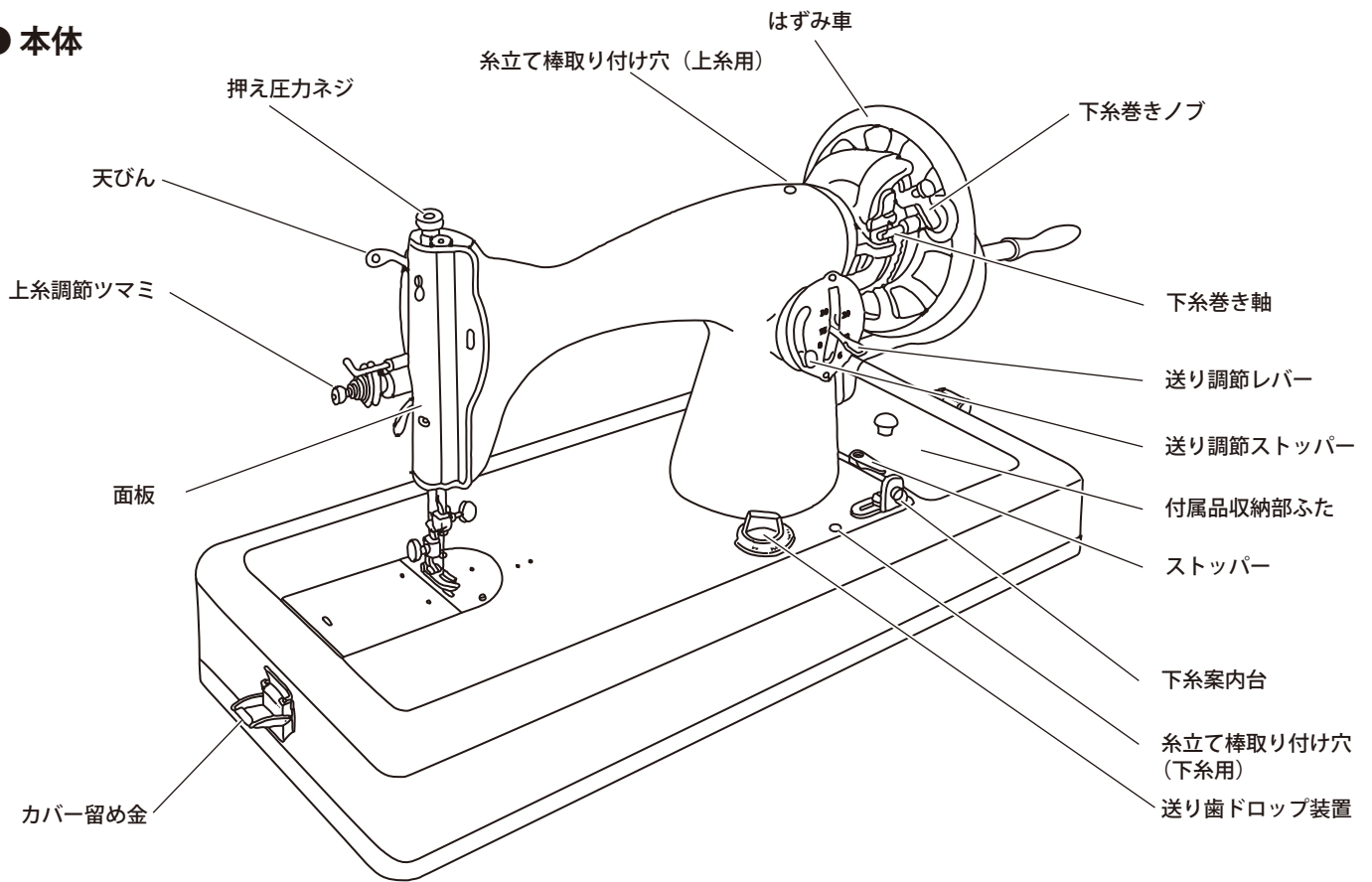
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。ときどき、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

### ■ミシンの上に物を載せない/ミシンの上に乗らない

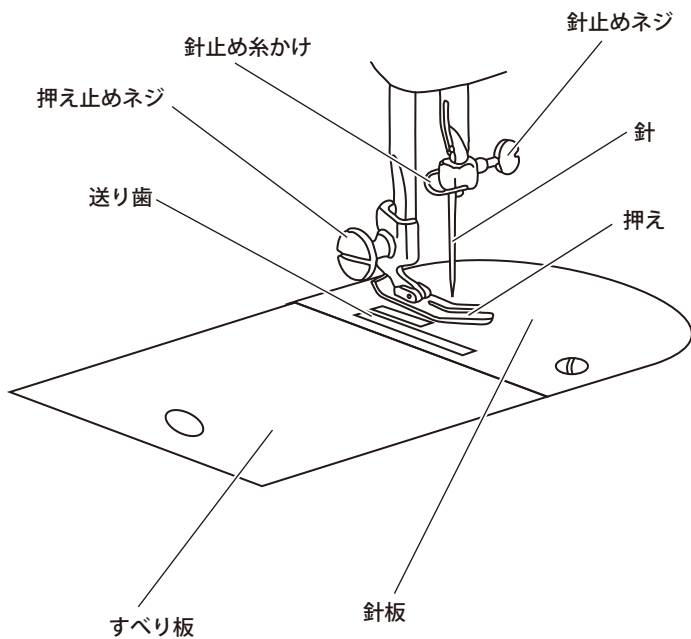
ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れるなど、ケガの原因にもつながります。

# 各部の名まえ

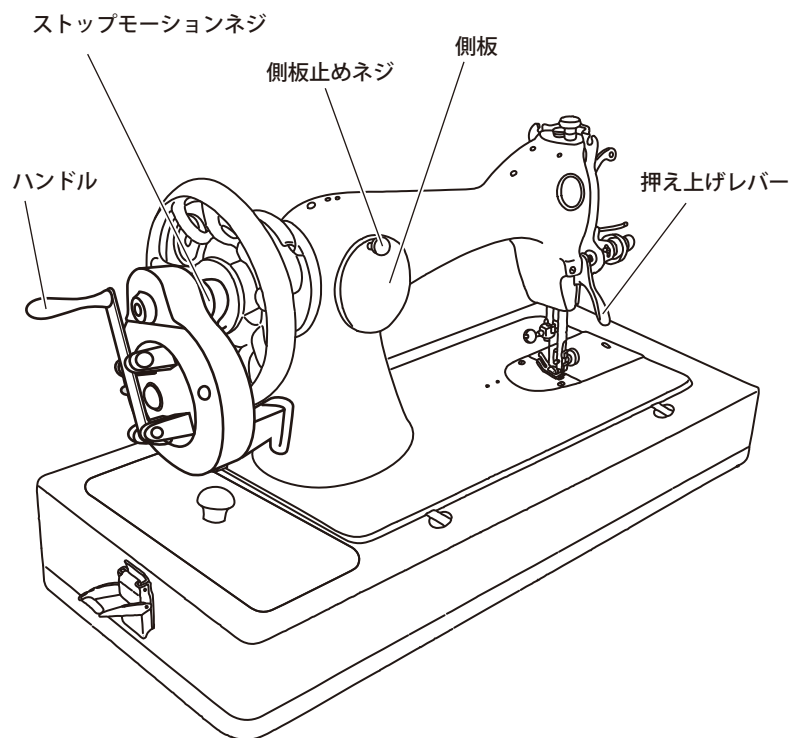
## ● 本体



## ● 針周辺



## ● その他



# 木製カバー

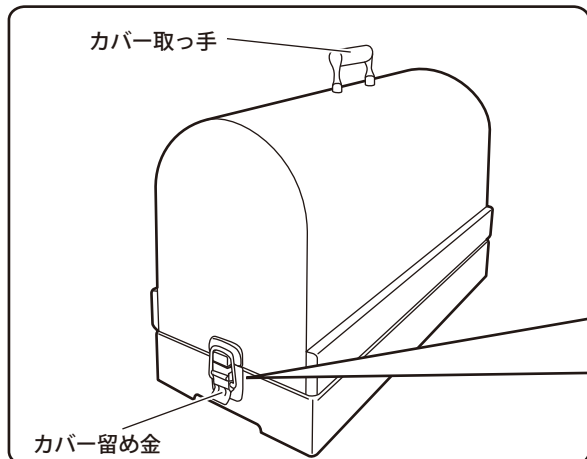


## 注意



- ・ ミシン本体は比較的重量があり(16kg)持ち運びされる際はカバーをかぶせ、ロックが完全であるか十分に確認して持ち運びください。  
他の部分を持つとこわれたり、滑って落としケガの原因になります。
- ・ ミシン本体は16kgあります。ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。ケガをする恐れがあります。
- ・ カバー留め金が確実にロックできない場合は、カバー取っ手を持ち上げないでください。ケガをする恐れがあります。

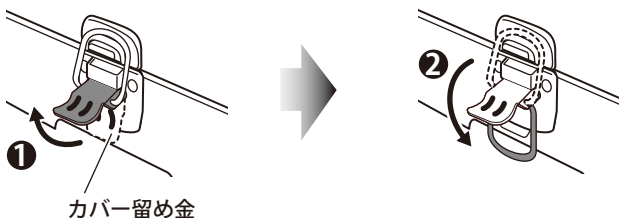
\* 修理のときなどの輸送に必要ですので、緩衝材（発泡スチロール）と外箱は保存しておいてください。



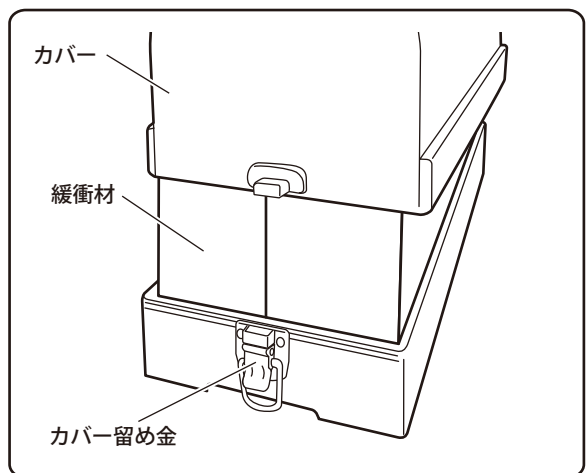
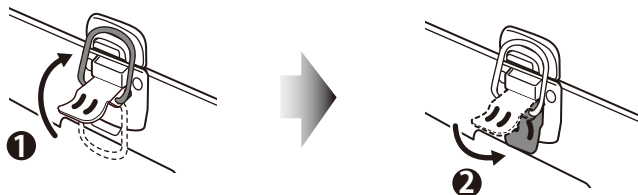
**1** ミシンの重量が 16 kg ありますので、箱から出すときには慎重に『カバー取っ手』を持ち、引き出してください。

**2** 『カバー』の両端の『カバー留め金』のロックを外し、カバーを持ち上げます。

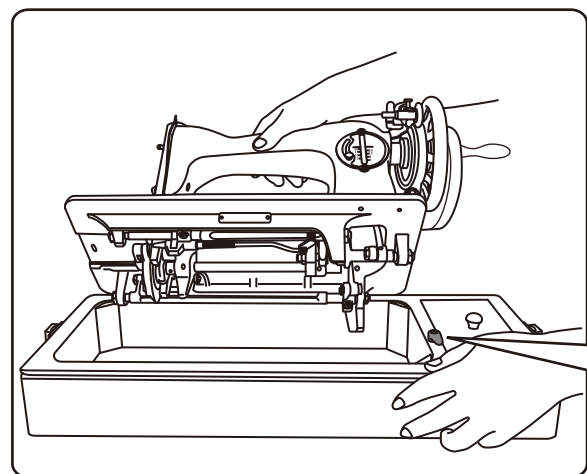
### ● カバー留め金のはずしかた



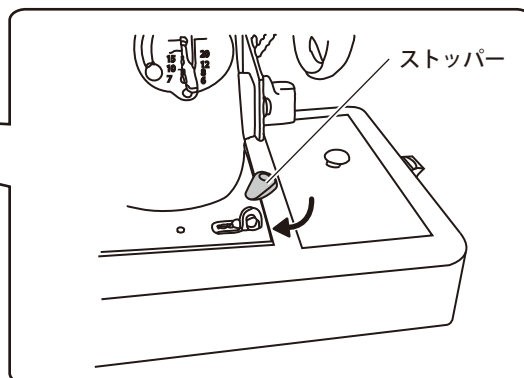
### ● カバー留め金の付けかた



**3** ミシンを囲んでいる緩衝材を取り除きます。



**4** ミシンをしっかり持ち上げ、向こう側に引き上げます。ミシンの下に敷いてある緩衝材を取り除き、ミシンを元の状態に戻して、ミシンの『ストッパー』をミシン側に向けておきます。



\* ミシン底部に入っている緩衝材は取りはずしてご使用ください。

## 注意



- ・ ミシンを持ち上げや、下ろす際に、ミシンとカバーに指を挟まないようにしてください。ケガをする恐れがあります。



## 警告



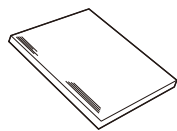
・付属品でお子様ケガをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。



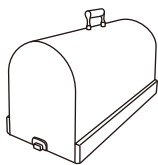
・付属品などの小さな部品は口に  
入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。  
誤って油を飲んだときは、『鉱物油』であることを伝えて医師に治療をお受けください。



・袋などの梱包材をかぶらないで  
ください。  
窒息をする恐れがあります。

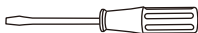


取扱説明書 (本書)



木製カバー

### 付属品箱に



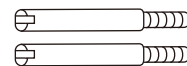
ドライバー  
(大・小各1本)



フェルト



油さし



糸立棒

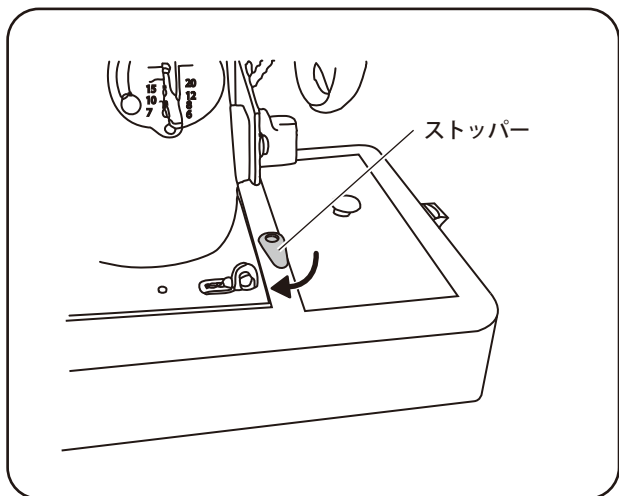


家庭用ミシン針 HA×1  
3本 (#14)

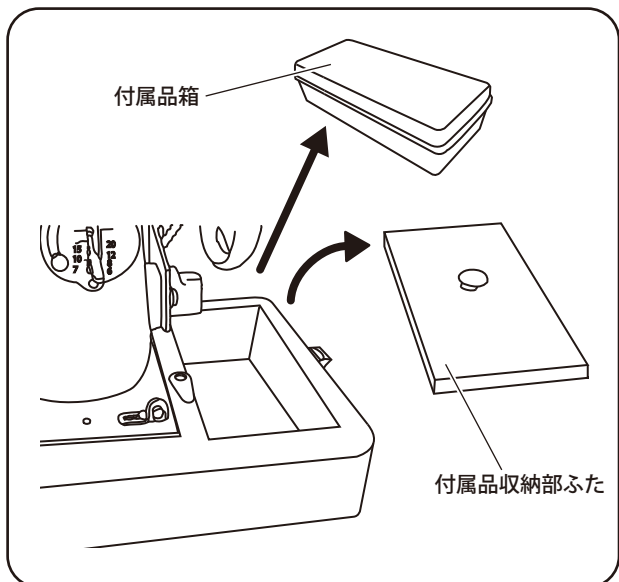


鉄ボビン 3個 (高さ: 11.5mm  
直径: 20.5mm)

## ● 付属品箱の取り出しかた



1 『ストッパー』を回します。

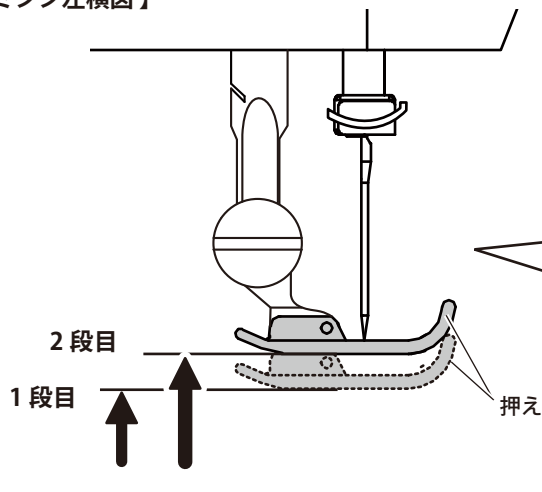


2 『付属品収納部ふた』をはずすと  
付属品箱の出し入れができます。付属品箱の中には  
各付属品が入っています。

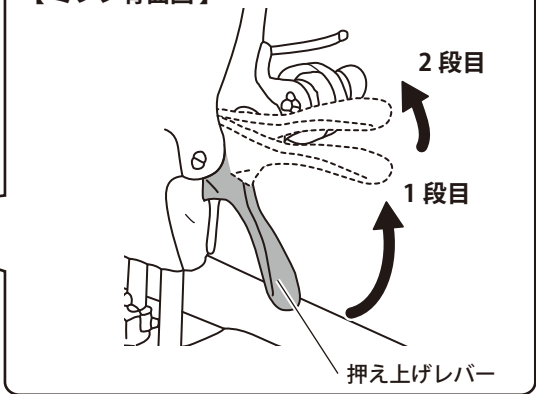
**注意**  ・針、天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。

## ● 押えの上げ・下げ

【ミシン左横図】



【ミシン背面図】




『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。

更に『押え上げレバー』を上げると『押え』が上がる2段階式になっています。

\*2段階目では固定ができません。

\*生地の厚みは1段階目の高さを超えないようにしてください。

**注意**  ・針、天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。

## ● 押えのはずしかた

【ミシン右側面図】

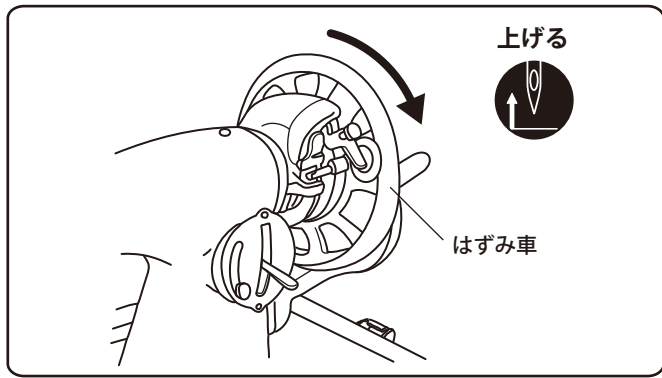


**1** 片手でしっかり『はずみ車』を押え、『はずみ車』中央の『ストップモーションネジ』を矢印方向(反時計回りに30～60°回転)に回してゆるめます。

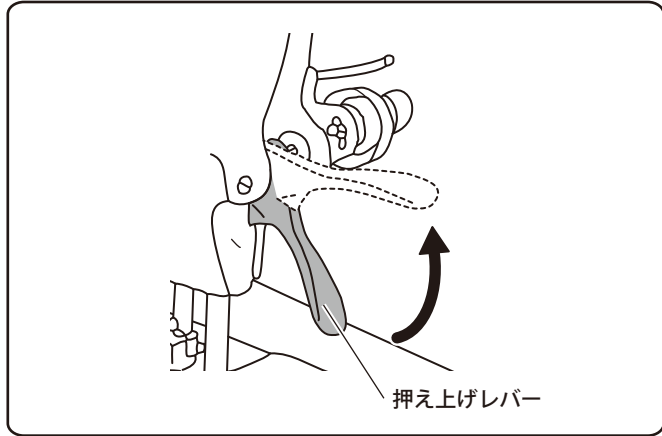
\* 『ストップモーションネジ』をゆるめると『はずみ車』を回しても針は動かなくなります。

\* 『ストップモーションネジ』のゆるめかたが不十分だと針が動くことがありますので注意してください。

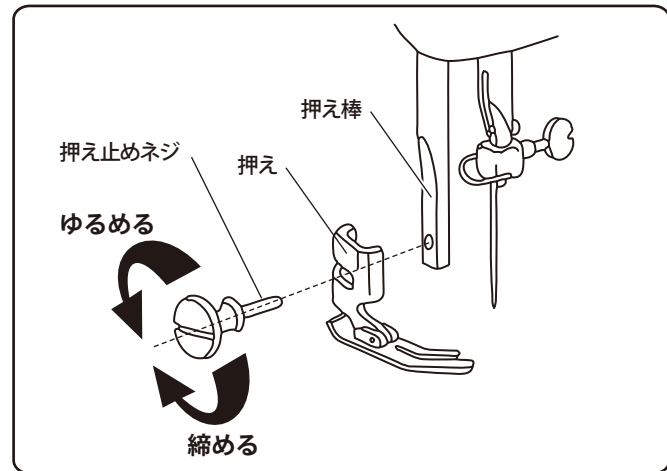




2 『はずみ車』を矢印方向に回し、針を一番上にします。



3 『押え上げレバー』を上げます。



4 『押え止めネジ』の取り付け、取りはずしには付属の『ドライバー』をご使用ください。

はずす : 『押え止めネジ』をゆるめ、はずします。

つける : 『押え』と『押え棒』の穴の位置を合わせます。

『押え止めネジ』を締めます。

## 縫うための準備

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



**注意**



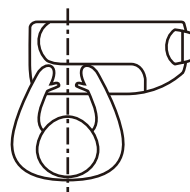
- 安定した場所に設置する。
- 作業スペースを十分に確保する。
- 周囲に物を置かない。

はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

### ● ミシンをより快適に使うために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

『はずみ車』を手で回してみる。

ミシンが正常に動くかを確認します。

針が曲がっていると、ポビンケースや針板に針が当り、折れたり傷を付ける場合があります。

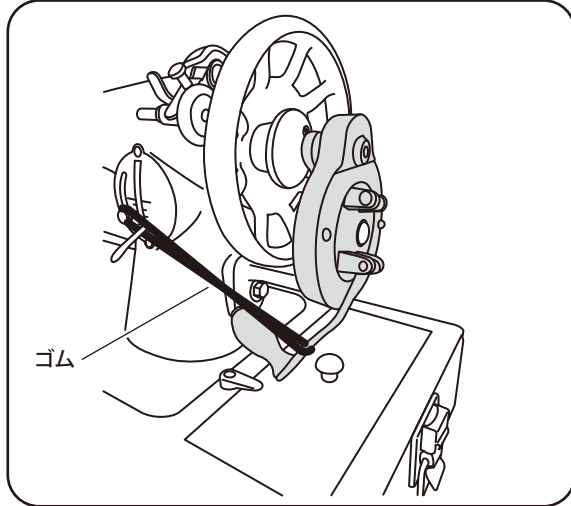
# ハンドルの使いかた



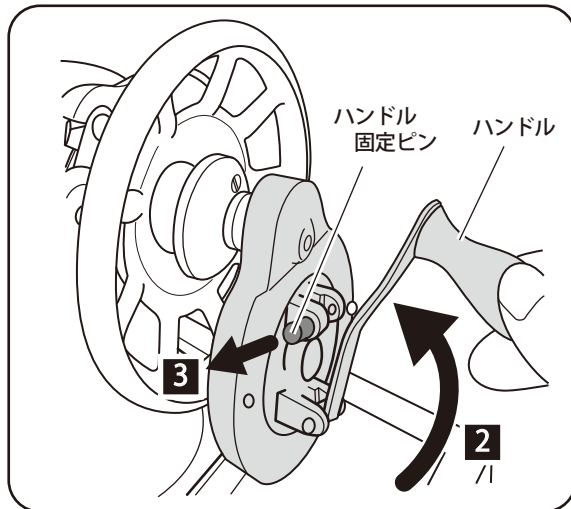
**注意**



- 針、天びん、下糸巻き軸などに注意する。ケガをする恐れがあります。
- はずみ車や針周辺に手や物を置かない。ケガをする恐れがあります。
- はずみ車の内側の穴には、指や物などを入れたまま、動かさない。ケガをする恐れがあります。
- ハンドルを速く回し過ぎたり、乱暴に扱わないください。  
ハンドル固定ピンが外れてミシンが空回りしてケガをする恐れがあります。
- お子様ご使用になるときは、特にご注意ください。ケガをする恐れがあります。

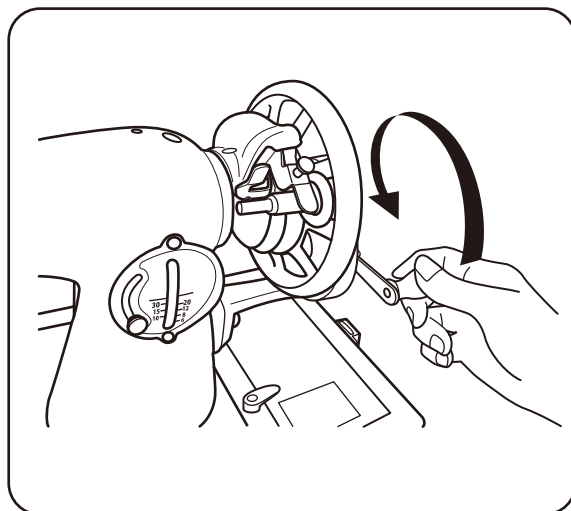


- 1 『ハンドル』にかけている『ゴム』をはずします。



- 2 『ハンドル』を引き上げます。
- 3 『ハンドル固定ピン』を引き、『ハンドル』を取り付けます。
- 4 『ハンドル固定ピン』を離すと『ハンドル』が固定できます。

\* 『ハンドル』収納時は『ハンドル固定ピン』を引き『ハンドル』をたたみます。



- 5 『ハンドル』を矢印方向に回すと、ミシンが動きます。

\* 『ハンドル』を矢印方向と逆方向に回すと糸がかみこんでしまいます。  
絶対に逆回転させないでください。

**注意**



- ハンドルを回す際は、カバーやカバー留め具に手が当たらないように注意してください。  
ケガをする恐れがあります。

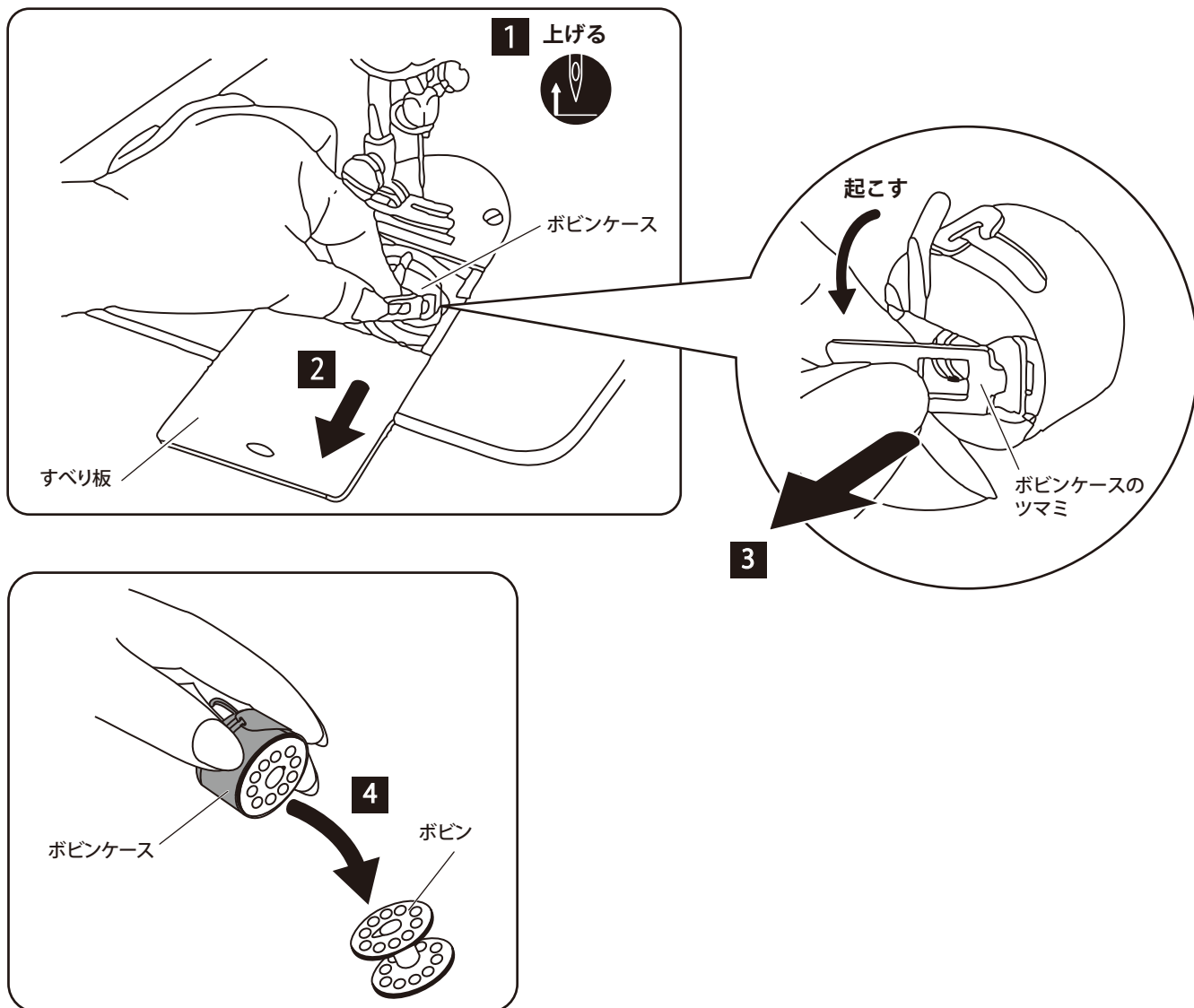
# ボビンの取り出しかた



**注意**



・針、天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。



**1** 『はずみ車』を回し、針を一番上にします。

**2** 『すべり板』を手前に引きます。

**3** 『ボビンケースのツマミ』を起こし、つまんだまま引き抜きます。

**4** 『ボビンケースのツマミ』を元に戻し、『ボビンケース』を持ちボビンを取り出します。

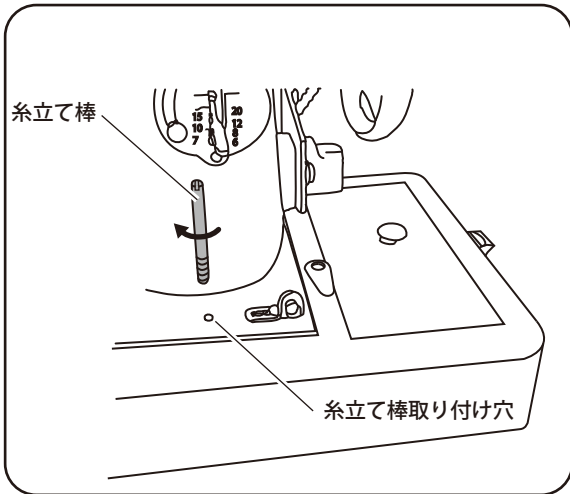
# 下糸の巻きかた



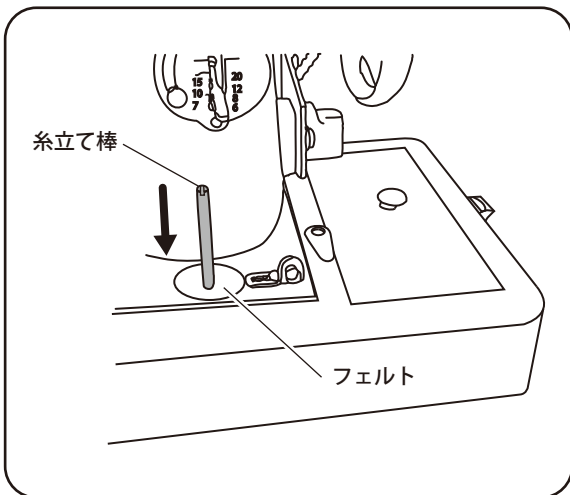
**注意**



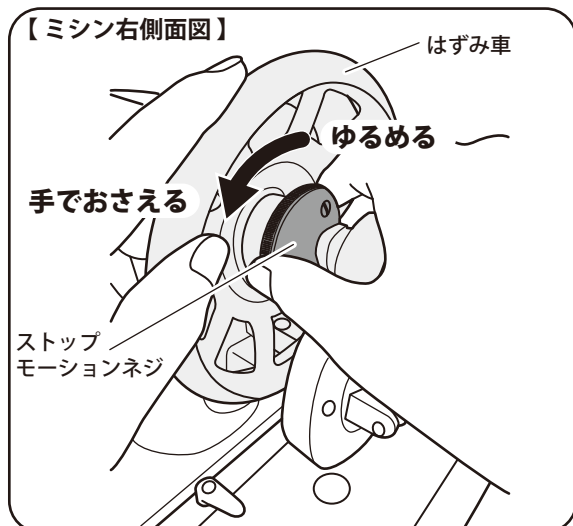
・針、天びん、下糸巻き軸に注意する。ケガをする恐れがあります。



- 1 付属の『ドライバー』を使用し『糸立て棒取り付け穴』に『糸立て棒』を奥まで矢印方向にねじ込みます。



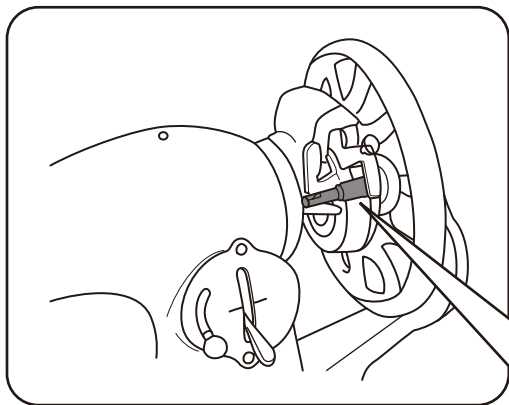
- 2 『糸立て棒』に『フェルト』をしきます。



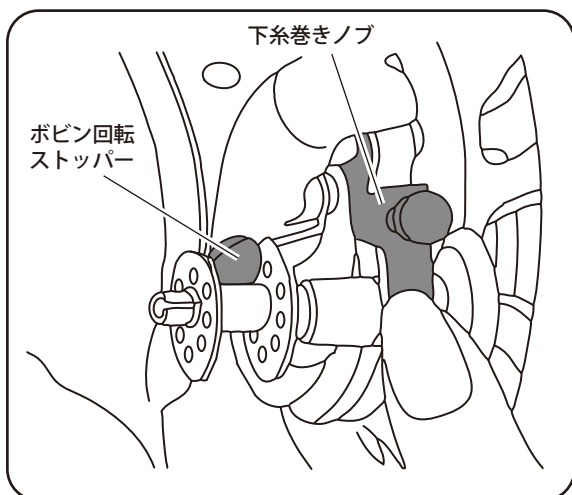
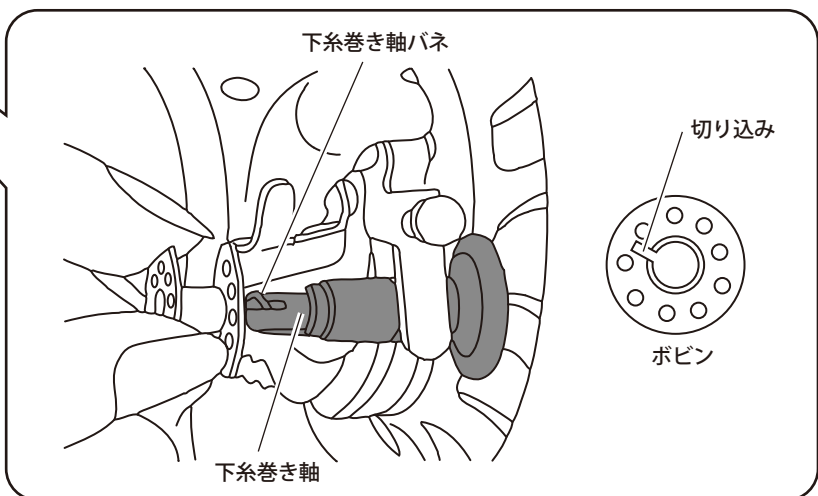
- 3 片手でしっかり『はずみ車』を押え、『はずみ車』中央の『ストップモーションネジ』を矢印方向(反時計回りに30～60°回転)に回してゆるめます。

\* 『ストップモーションネジ』をゆるめると『はずみ車』を回しても針は動かなくなります。

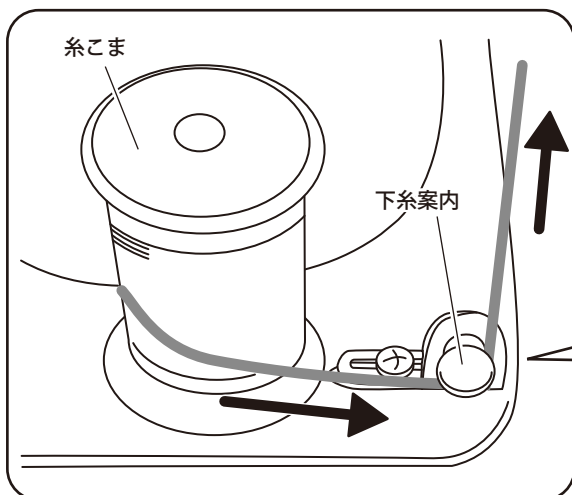
\* 『ストップモーションネジ』のゆるめかたが不十分だと針が動くことがありますので注意してください。



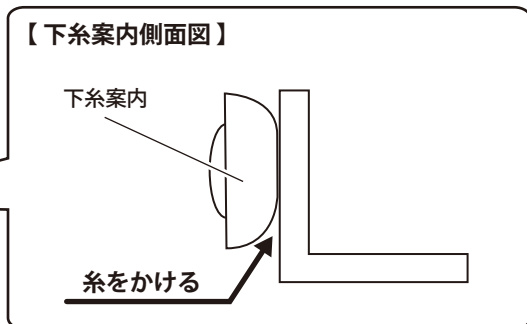
4 『ボビンの切り込み』と『下糸巻き軸バネ』を合わせ、『ボビン』を『下糸巻き軸』に奥までしっかり差します。

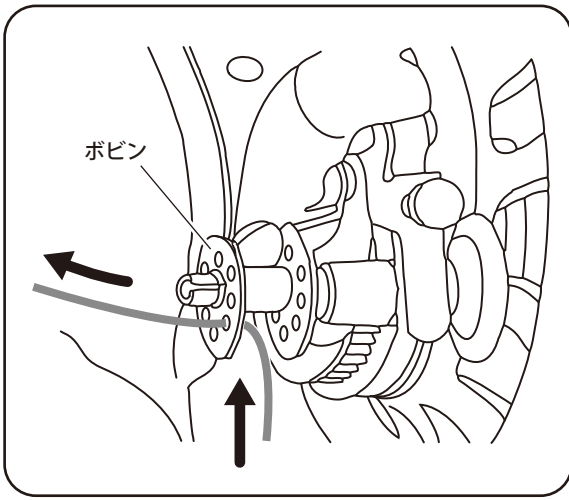


5 『下糸巻きレバー』を押し付けると、『ボビン回転ストッパー』がセットされます。

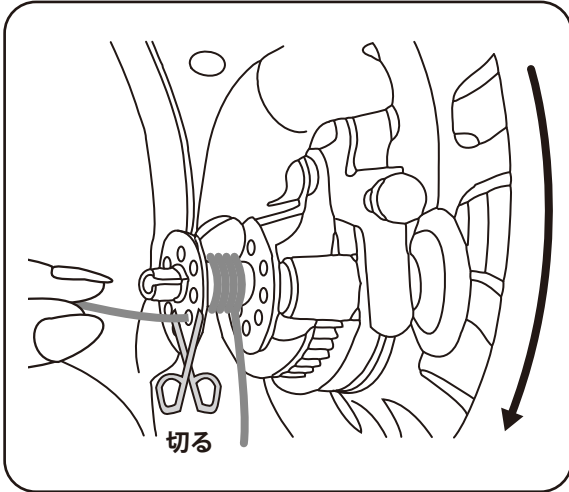


6 『糸立て棒』に『糸こま』を差し、『下糸案内』に糸をかけます。

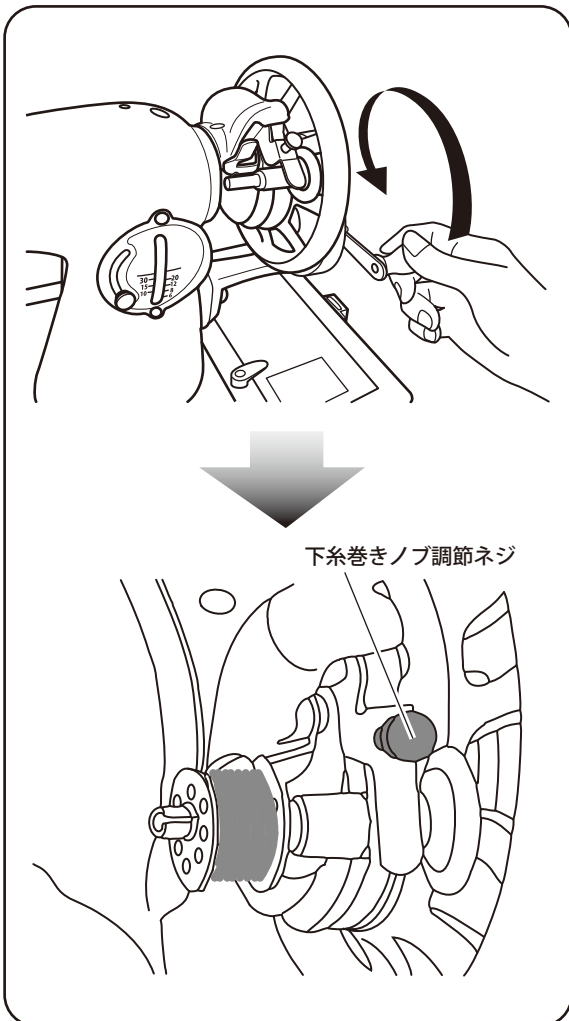




7 『ボビン』の穴に内側から糸を通します。



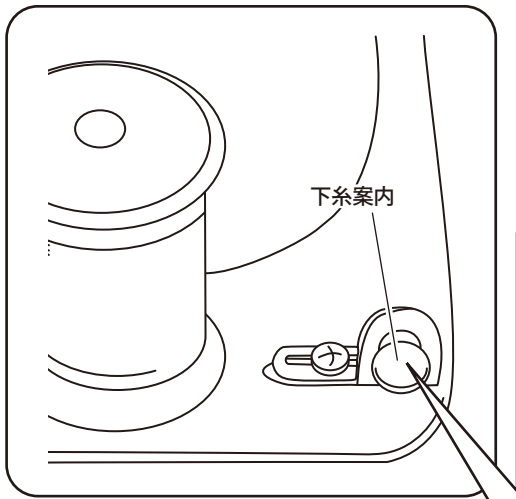
8 糸の端を持ち、『はずみ車』を手前に回して『ボビン』に7～8回ほど糸を巻き、糸を切ります。



9 『ハンドル』を矢印の方向に回し、ゆっくり糸を巻きつけます。

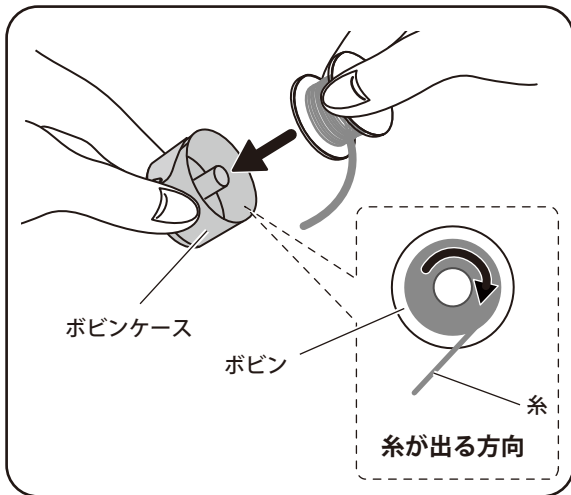
\* 『ボビン』が回らない場合は、『下糸巻きノブ調節ネジ』を回して調節します。

\* 『ハンドル』は絶対に逆回転させないでください。

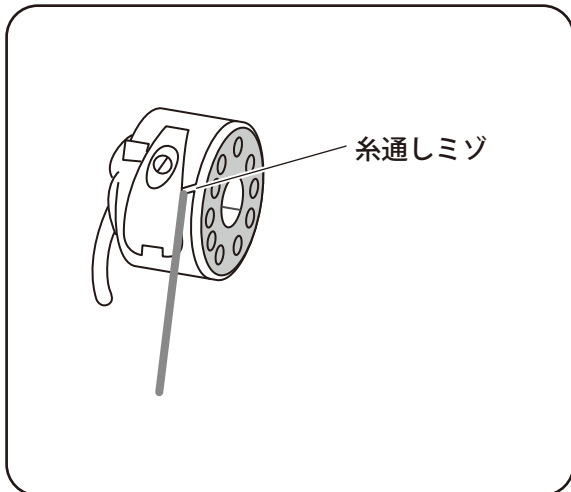


\* 『ボビン』の糸巻きが片寄る場合は、『下糸案内』の位置を調節してください。

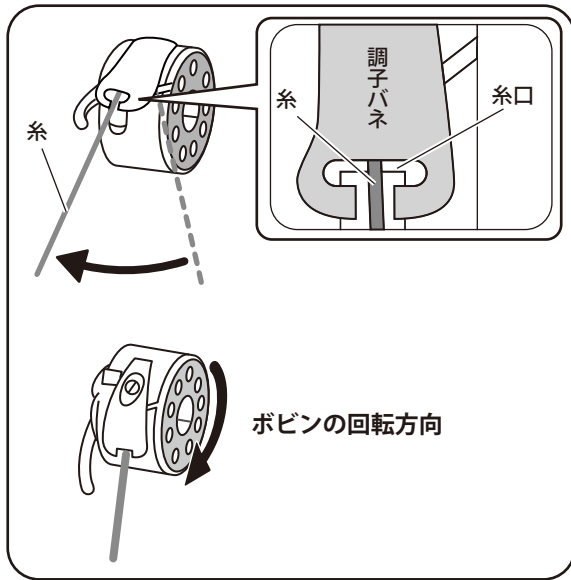
○ 正しい巻きかた		<p>『ボビン』の糸が均一に巻けない際は、『下糸案内』を左右に調整します。</p>
× 悪い巻きかた		<p>『ボビン』が左記のようになる際は『下糸案内固定ネジ』をゆるめて『下糸案内』を右に調整します。</p>
× 悪い巻きかた		<p>『ボビン』が左記のようになる際は『下糸案内固定ネジ』をゆるめて『下糸案内』を左に調整します。</p>



**11** 『ボビン』から糸を10cmほど引き出し、糸の端が右側にくるように『ボビンケース』の中に入れます。

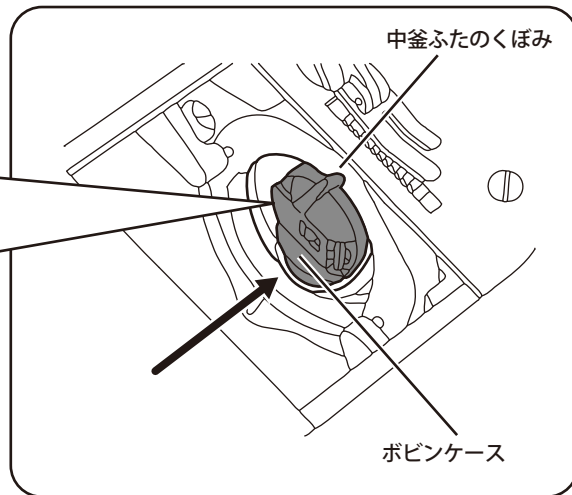
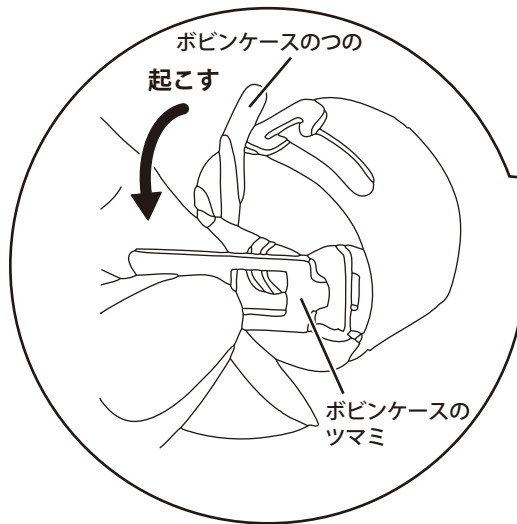


**12** 糸の端を持ち、『糸通しミヅ』に入れます。



**13** 『ボビン』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『糸口』まで糸を引きます。

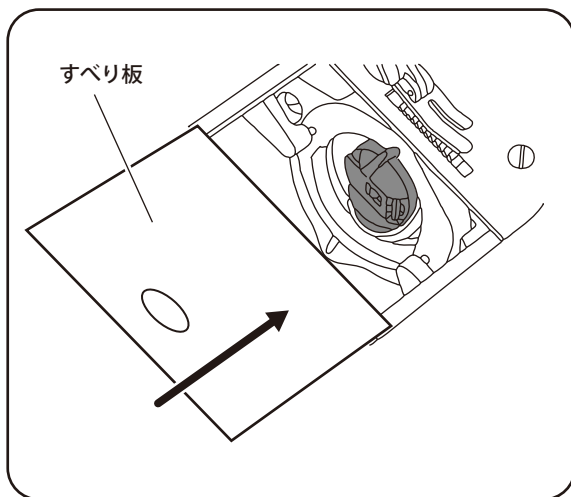
\* 糸を引いたとき、『ボビン』がスムーズに回転しない場合は『ボビン』や『ボビンケース』が変形している恐れがあります。変形していない『ボビン』と交換してください。



**14** 『ボビンケースのツマミ』を持ちます。

**15** 『ボビンケースのつの』を『中釜ふたのくぼみ』に入るように合わせ、奥まで差し込みます。

\* 『ボビンケース』が回転しない位置までしっかり差し込みます。



**16** 『すべり板』を閉めます。



# 上糸のかけかた

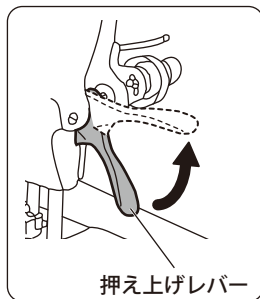
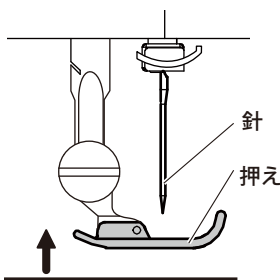
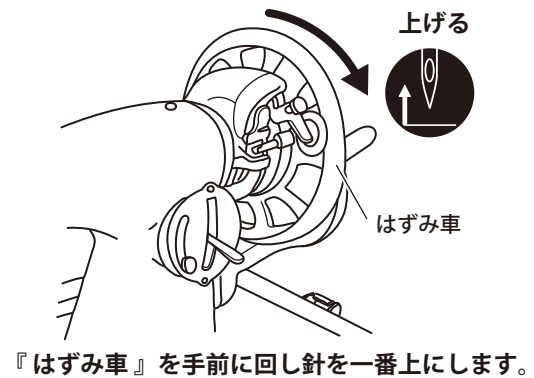


**注意**

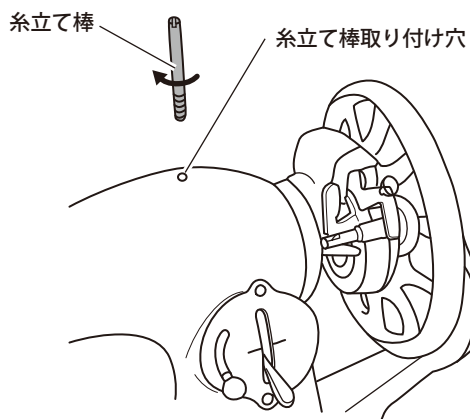


・針、天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。

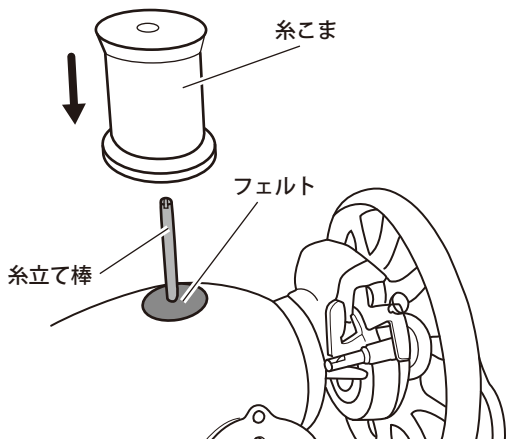
## 準備



『押え』を上げます。

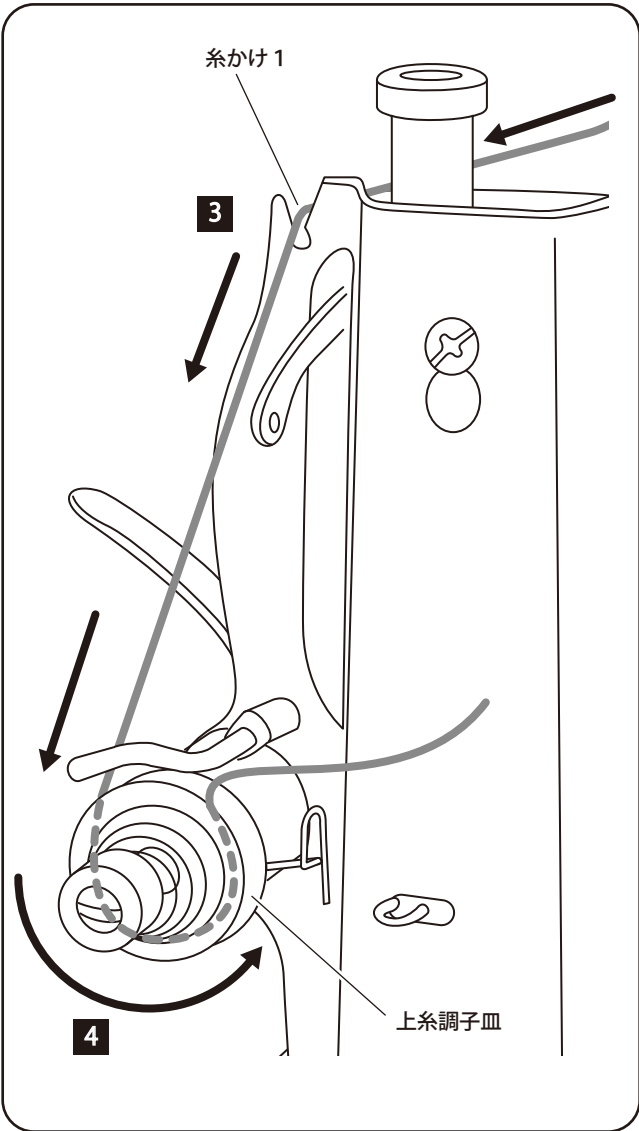
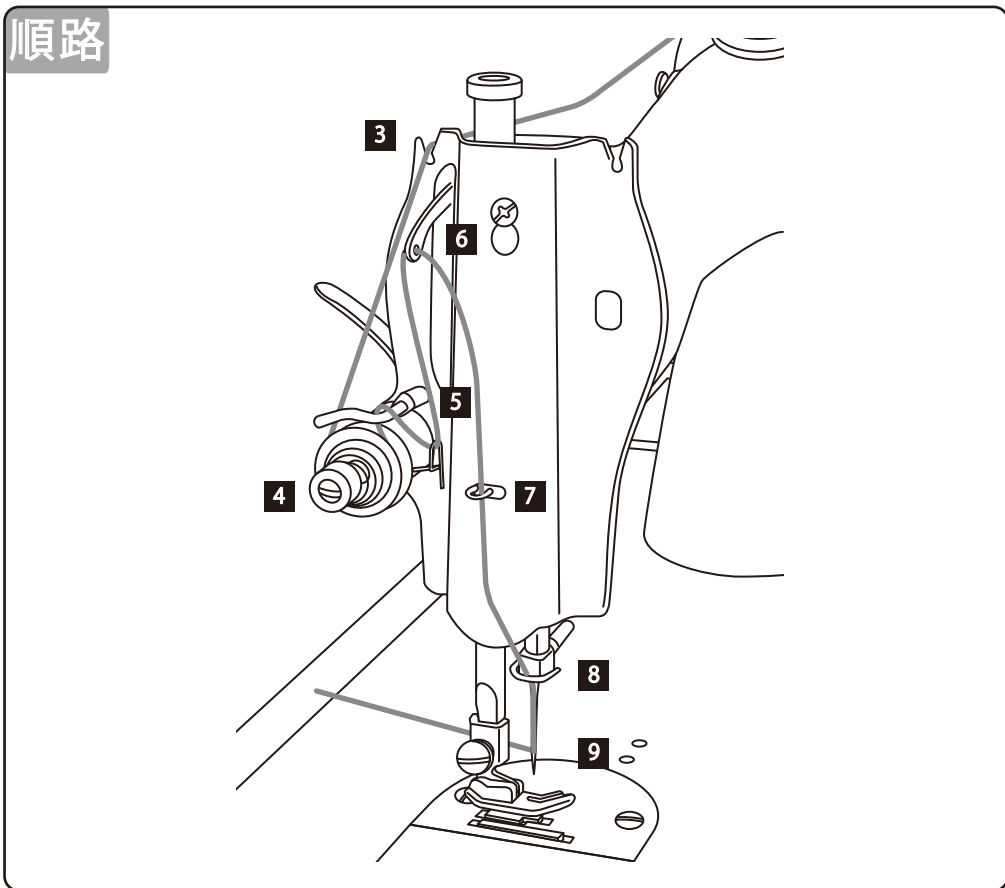


1 付属の『ドライバー』を使用し『糸立て棒取り付け穴』に『糸立て棒』を奥まで矢印方向にねじ込みます。



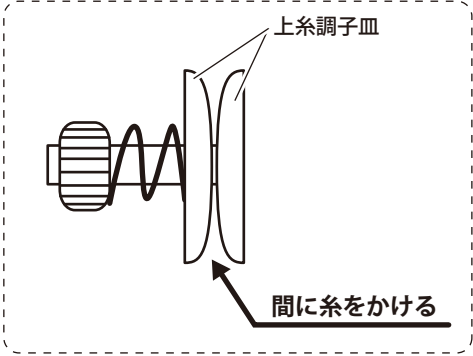
2 『糸立て棒』に『フェルト』をしき、『糸こま』を『糸立て棒』に差します。

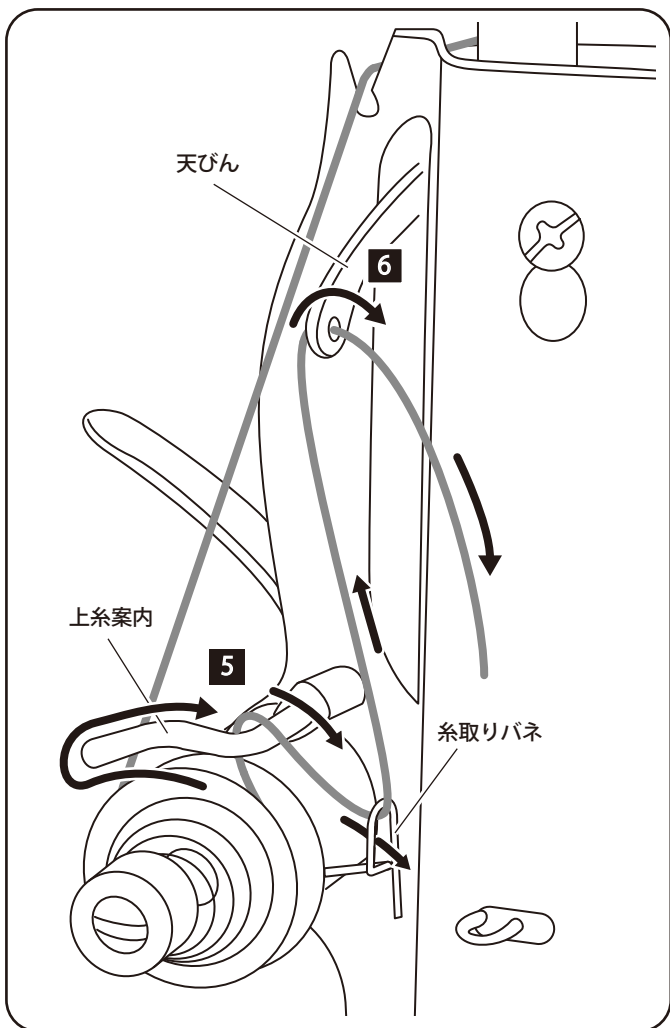
順路



3 糸こまからの糸を『糸かけ1』にかけます。

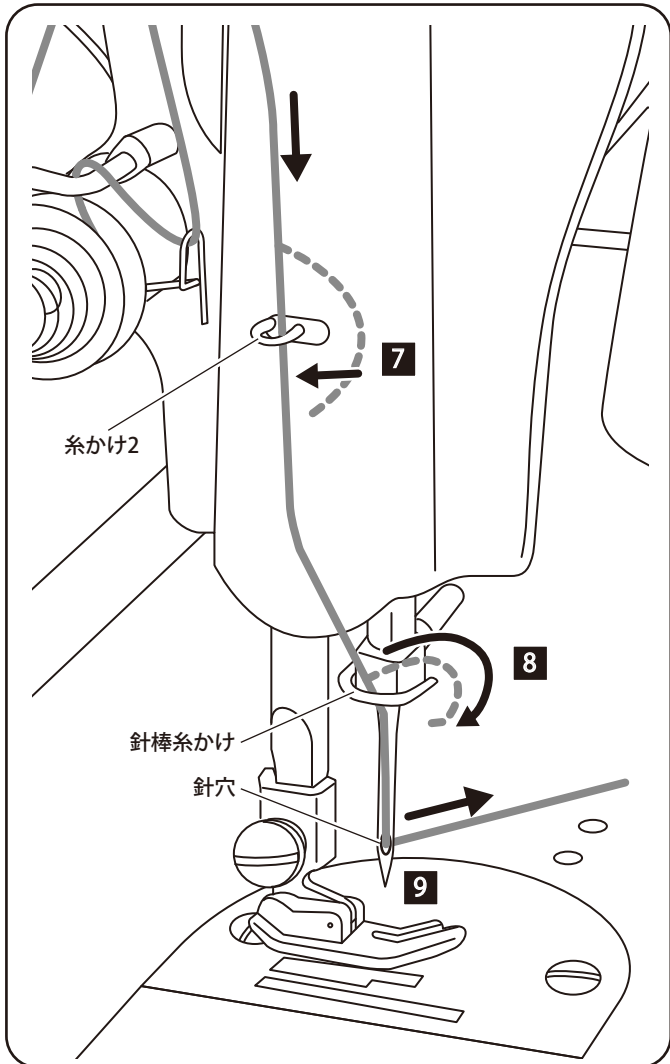
4 2枚の『上糸調子皿』の間に糸をかけます。





5 『上糸案内』と『糸取りバネ』に糸をかけます。

6 『天びん』の穴に糸を通します。



7 『糸かけ2』に糸をかけます。

8 『針棒糸かけ』に糸をかけます。

9 『針穴』に糸を左から右へ通します。

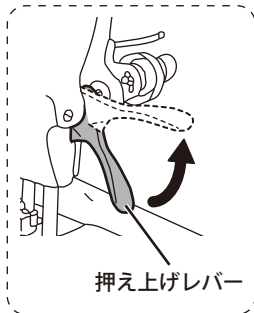
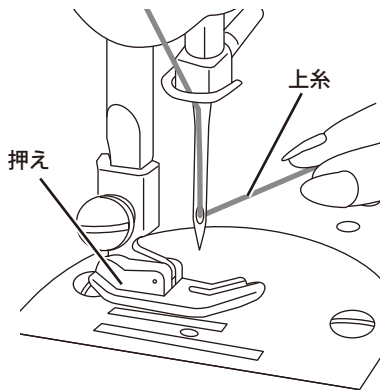
# 下糸の引き上げかた



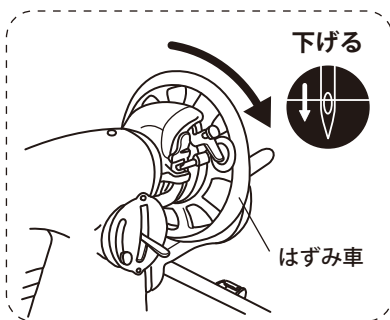
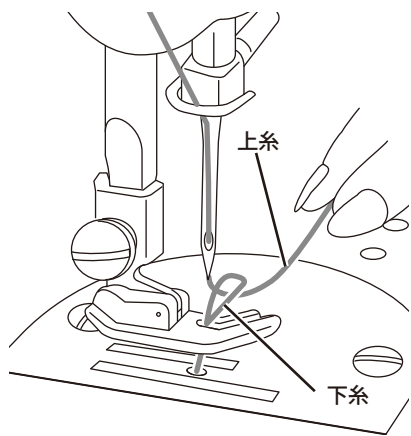
**注意**



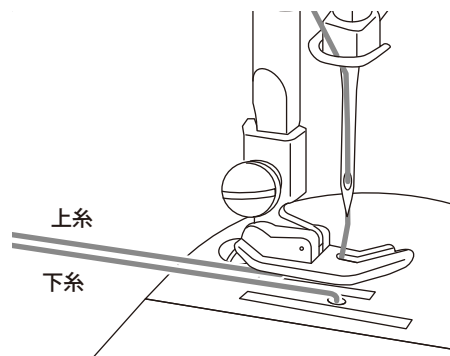
・針、天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。



**1** 『押え上げレバー』で『押え』を上げ  
上糸の先を持ちます。



**2** 『はずみ車』を手前に回し、針を下げ、上げると下糸の輪が  
引き出されます。下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。



**3** 上糸と下糸をそろえ、『押え』の下に  
10cm ほど引き出します。

## 針、糸、生地の関係

きれいに縫うためには、生地に合った針と糸をご使用ください。(下記の表を参照)

糸はミシン糸をご使用ください。手縫い糸は使えません。

上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

針は家庭用ミシン針 (HA×1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

(工場出荷時、ミシンには 14 番の針が装備されています。)(針の交換方法は 29 ページを参照ください。)

\* 下記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いを行い、縫い目をご確認ください。

\* 使用できる糸の太さは #40 までです。糸が太すぎると糸がらみの原因になります。

\* 綿や絹糸は、長期保管されていると、糸が劣化して切れやすくなります。

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガムなど	11、14 番	綿 60～90 絹 50～90 化繊糸 60～90
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュブラなど	9、11 番	綿 60～100 絹 50～90 化繊糸 60～90
厚地	キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルトなど	14、16 番	綿 40～50 絹 50 化繊糸 40～60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンテックス、ジャージなど	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50～90 ニット用糸 50～90

\* 針は数字が大きくなるほど太くなります。

\* 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

# 送り調節

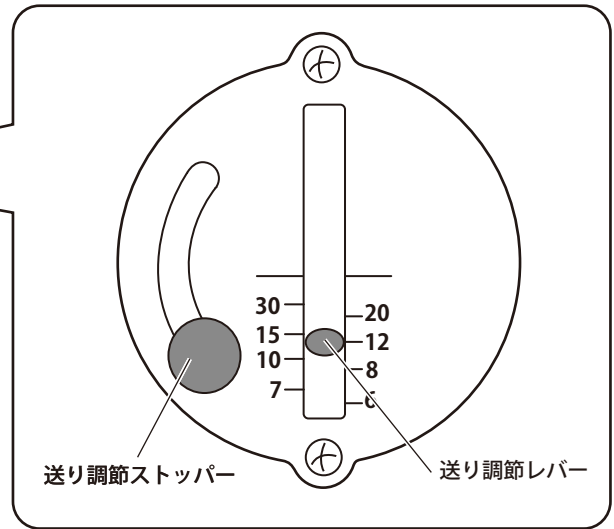
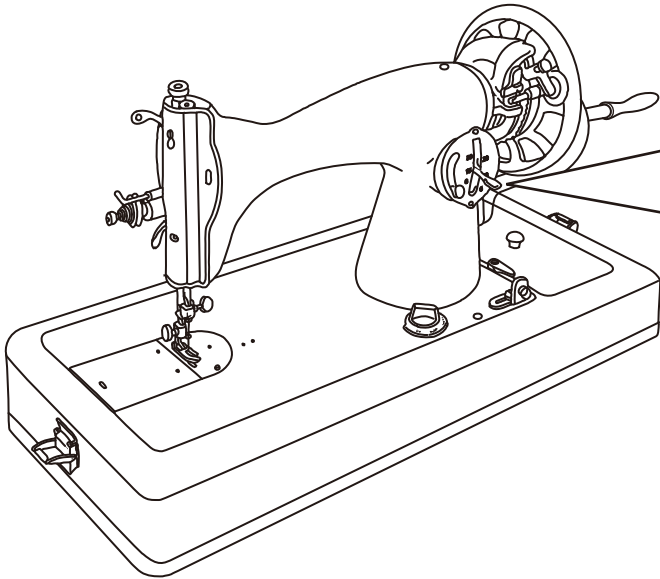


**注意**



・針や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。

\* 縫い目の大きさは『送り調節レバー』で調節します。

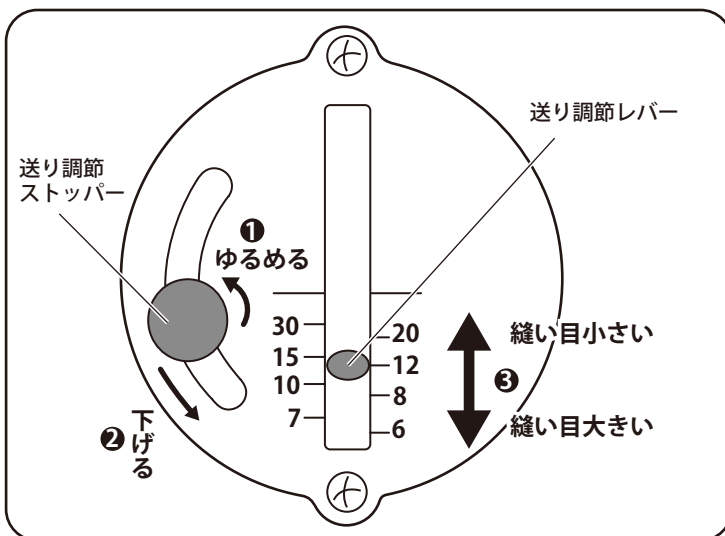
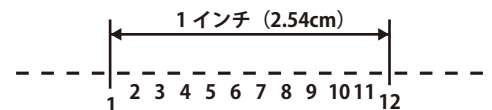


**1** 『送り調節ストッパー』をゆるめて下げます。

**2** 『送り調節レバー』を上下して好みの縫い目に合わせます。

### 目盛の見かた

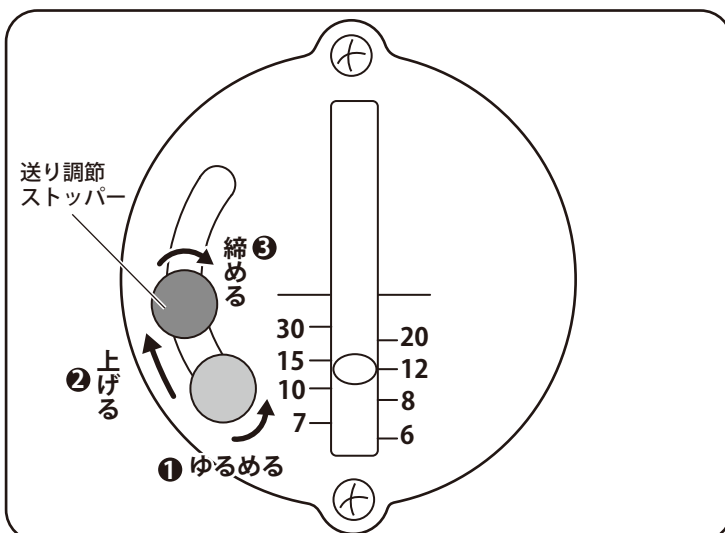
\* 目盛 12 の位置では、1 インチ (2.54cm) 間に 12 針刺さります。



**3** 『送り調節レバー』を固定させるために『送り調節ストッパー』をゆるめて上げて、締めます。

**4** 縫い目を変更する際は『送り調節ストッパー』をゆるめて下に下ろします。

**2** ~ **3** の作業を行ってください。



# 送り歯ドロップ装置



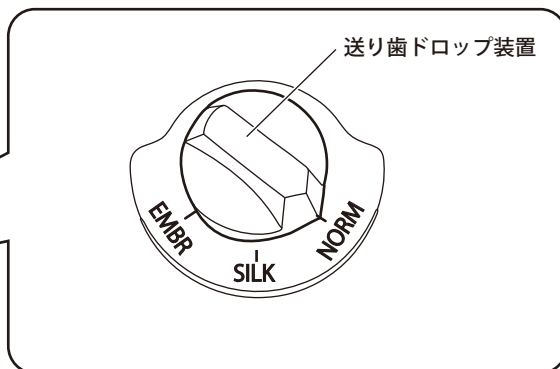
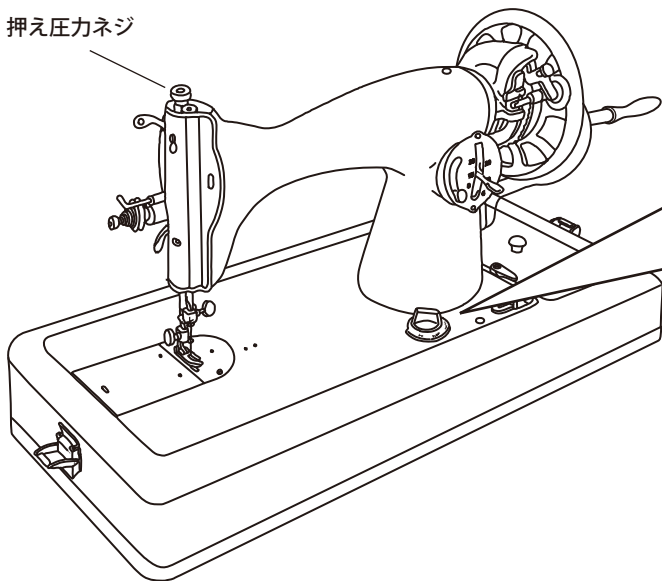
**注意**



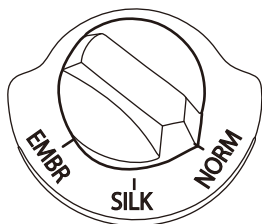
・針や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。

\* 厚地や薄い布など縫う際は『送り歯ドロップ装置』と『押え圧力ネジ』で送り歯高さを調節できます。

押え圧力ネジ



## ●一般的な布や厚地を縫うとき



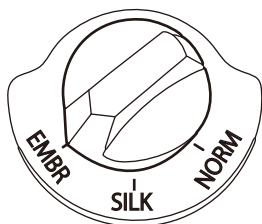
『送り歯ドロップ装置』を回し『NORM (ノーマル)』に合わせます。

## ●薄い布を縫うとき



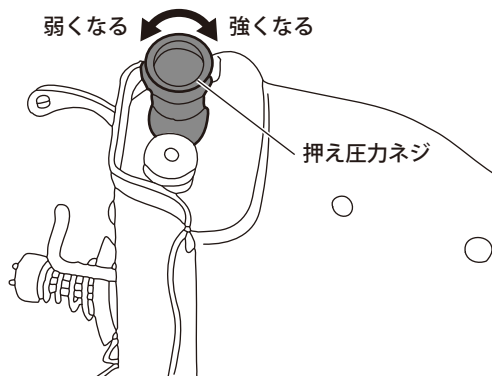
『送り歯ドロップ装置』を回し『SILK (シルク)』に合わせます。

## ●刺繍を縫うとき



『送り歯ドロップ装置』を回し『EMBR (エンブroidャリー)』に合わせ、『押え』をはずします。

\* 『送り歯ドロップ装置』を『EMBR』に合わせると送り歯が下がり、布は送りません。



布の厚さによって『押え圧力ネジ』を回して調節します。

- ・厚地するとき：右に回します。
- ・薄地するとき：左に回します。

\* 工場出荷時は、『押え圧力ネジ』は適切な強さで調節していますので、特に調節する必要はありません。

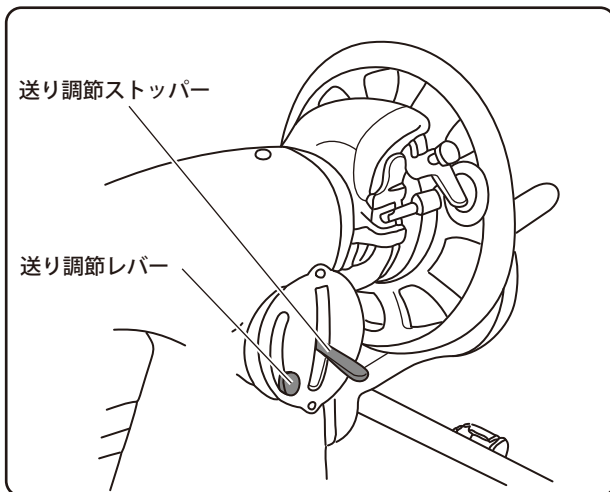
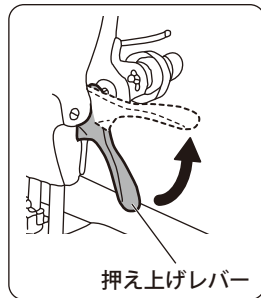
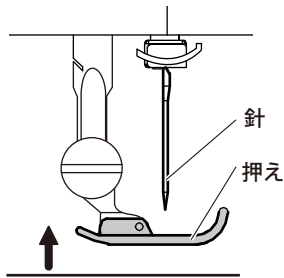
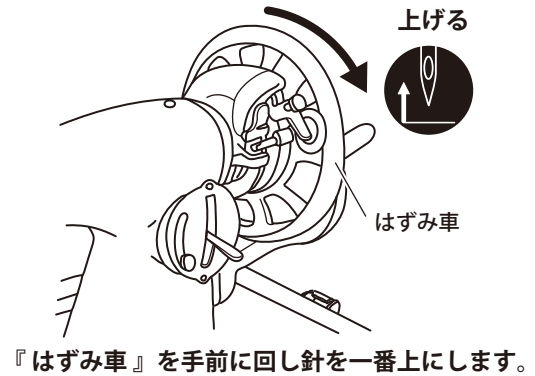
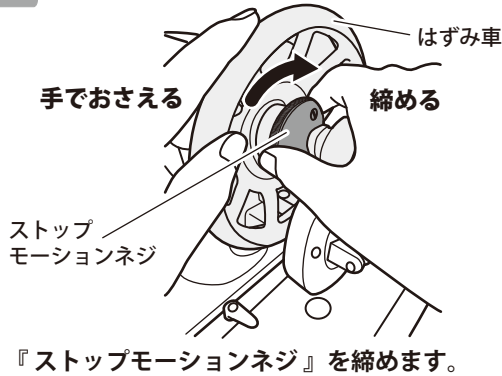


## 注意

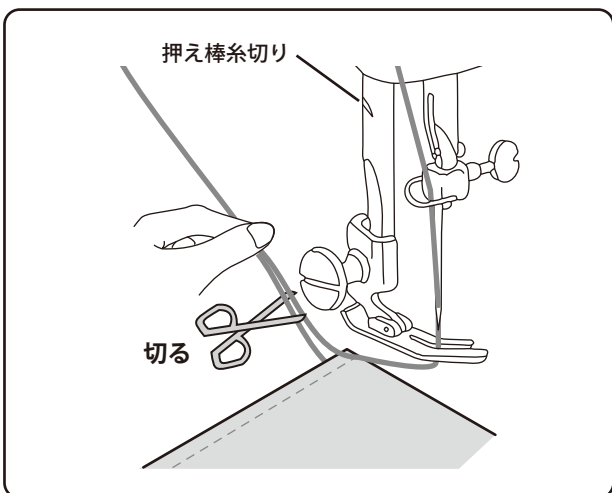
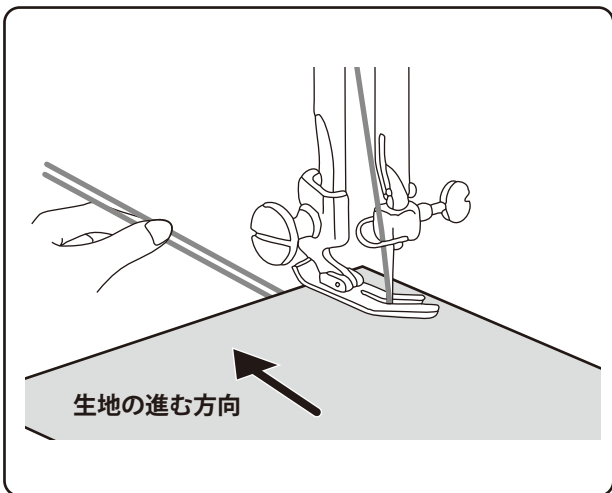
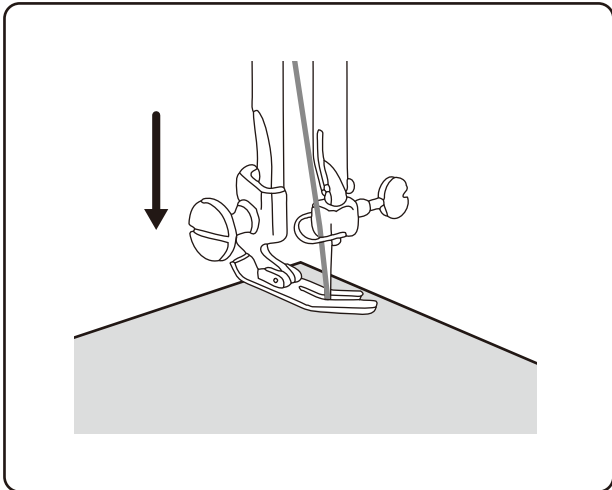
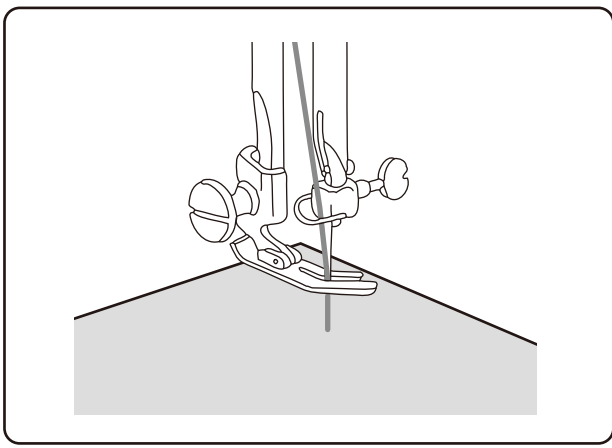


・針や天びん、はずみ車に注意する。ケガをする恐れがあります。

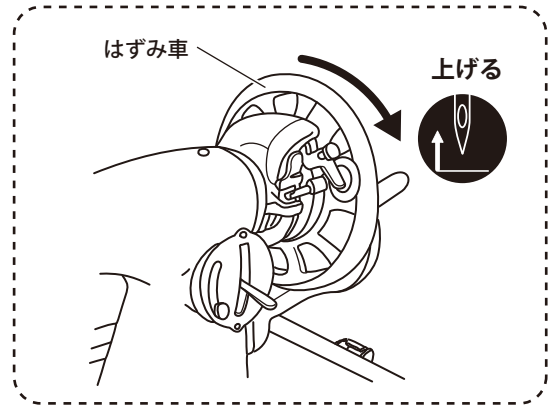
### 準備



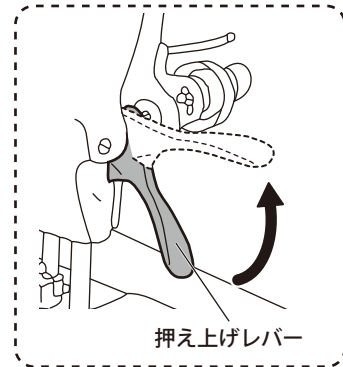
- 1 『送り調節レバー』を上下に動かして縫い目を調整し、『送り調節ストッパー』で固定します。(20Pをご参照ください)



2 『はずみ車』を手前に回して縫い始める位置に針を刺します。



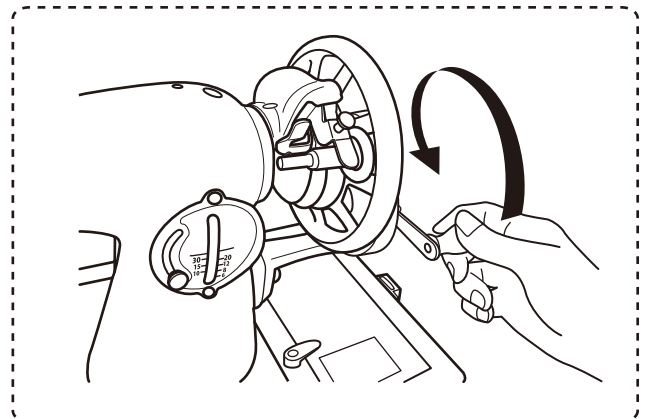
3 『押え上げレバー』を下げ、『押え』を下げます。



4 『ハンドル』を矢印の方向にゆっくり回し、縫い始めます。

\* 『ハンドル』を矢印方向と逆方向に回すと糸がかみこんでしまいます。

絶対に逆回転させないでください。



5 『押え上げレバー』を上げ、生地を引き出します。その後、はさみや『押え棒糸切り』で糸を切ります。

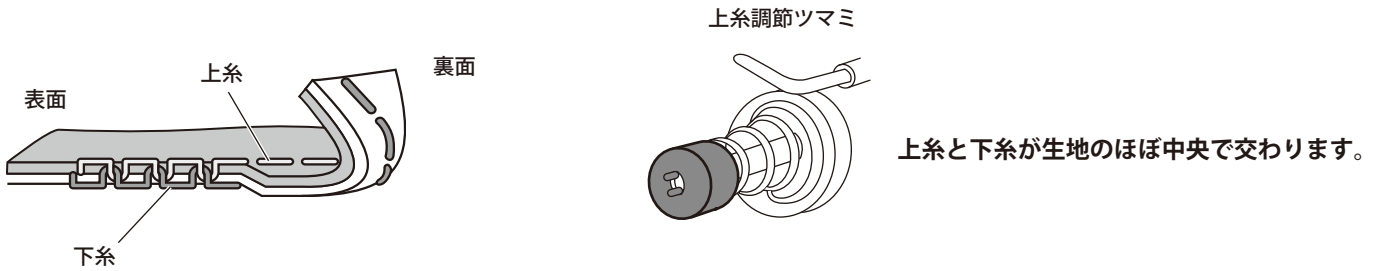


# 糸調子の合わせかた

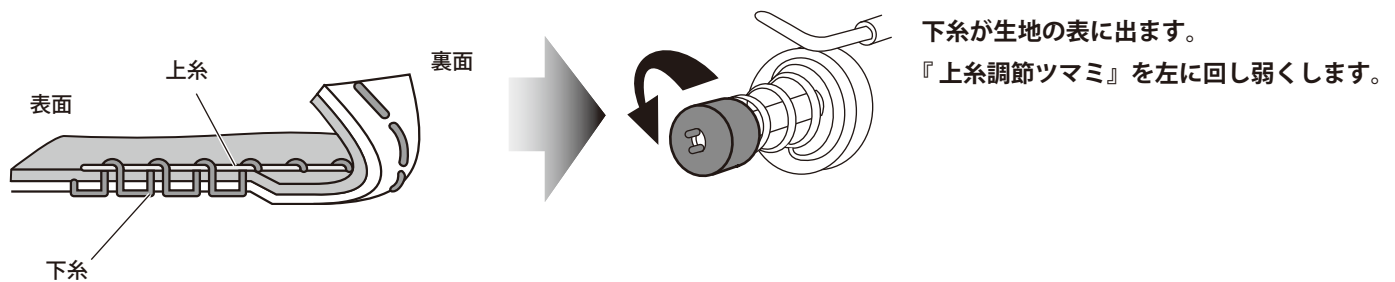
糸調子が合わない場合は、『上糸調節つまみ』を回し調節してください。

\* 『上糸調節つまみ』は回し過ぎると外れてしまいます。回し過ぎに注意してください。

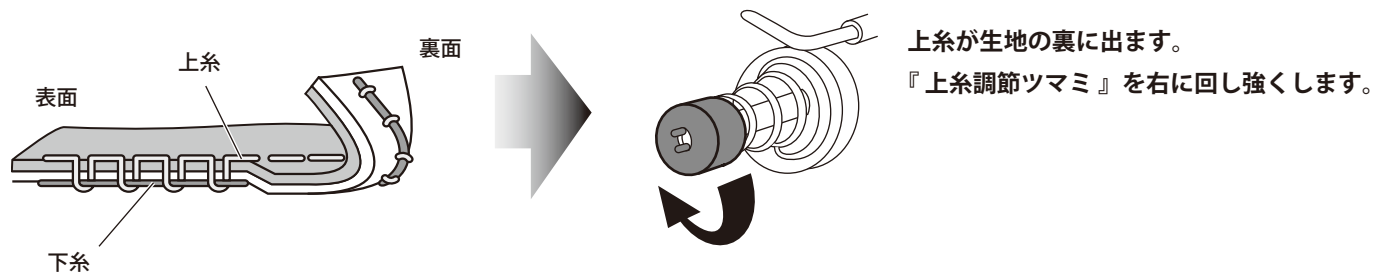
## ●正しい糸調子



## ●上糸が強いとき

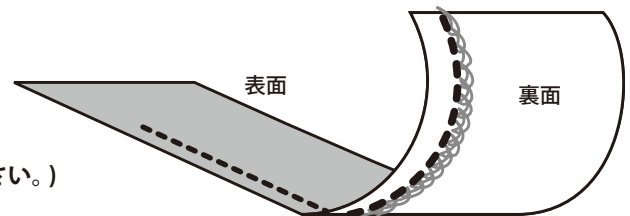


## ●上糸が弱いとき



## ●生地裏面に糸がタオル地のようなときは…

- 上糸の糸調子が弱い。
- 『押え上げレバー』が上がっている。
- 『天びん』から上糸がはずれている。
- 上糸のかけかたが間違っている。(P16 ~ P18 をご参照ください。)
- 糸が太すぎる。(糸の太さは #40 までの仕様です。)
- 針が悪い。



## ポイント!

『押え』を上げ、ミシンから上糸を全てはずし、上糸をもう一度はじめからかけ直してください。

(P16 ~ P18 をご参照ください)

# 返し縫い



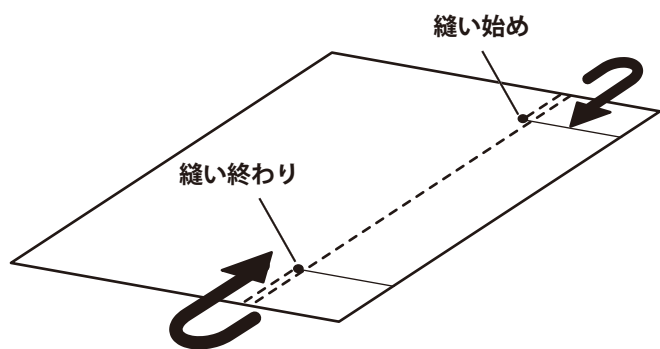
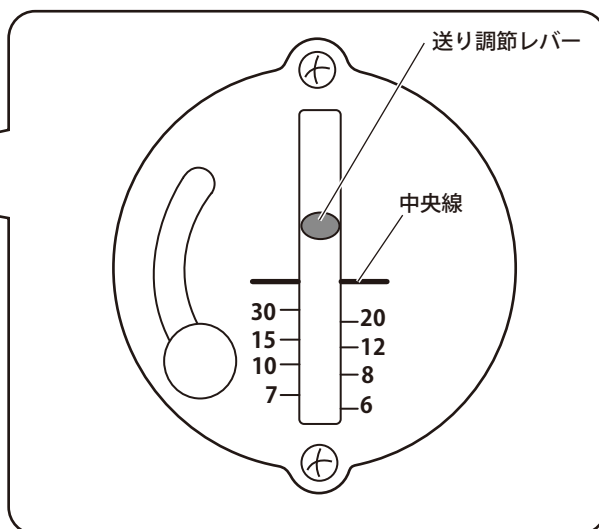
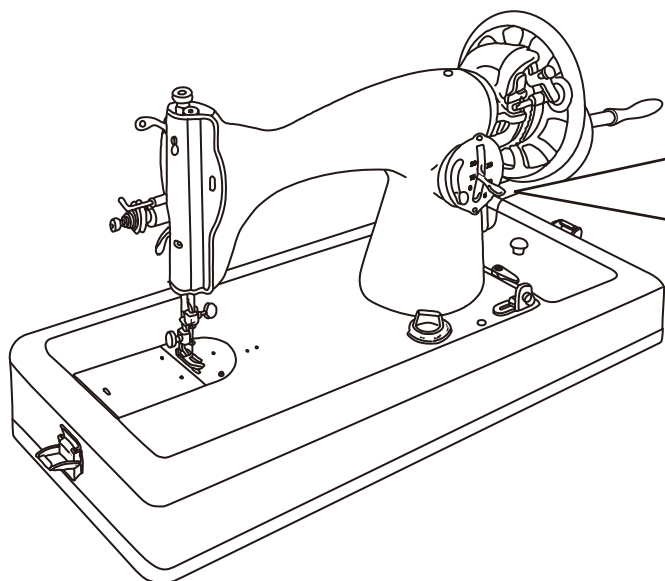
**注意**



・針、天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。



・針が生地に刺さった状態で返し縫いレバーを下げない。  
ケガをする恐れがあります。



ミシンが動いている間に『中央線』より上に『送り調節レバー』を上げると、上げている間は返し縫いになります。

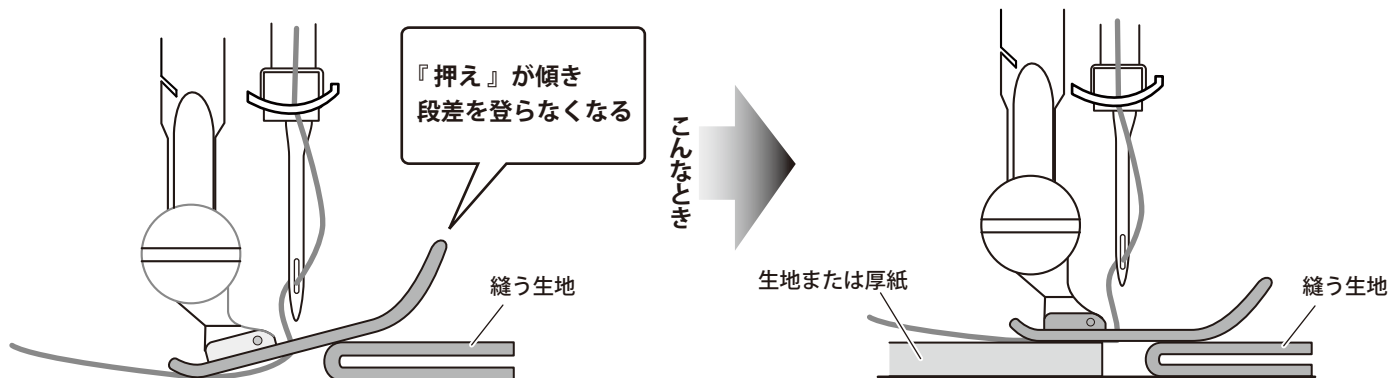
\* 縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれどめになります。

\* 生地の手ギリギリから返し縫いを行うと生地が食い込んでしまう場合があります。

# 厚地を縫う

縫い始めや段差を縫うとき

厚地の生地を生地端から縫い始めるときに『押え』が傾き、スムーズに縫えないことがあります。このようなときは、『押え』の下に生地と同じ厚さの厚紙などを置き、『押え』の傾きをなくします。



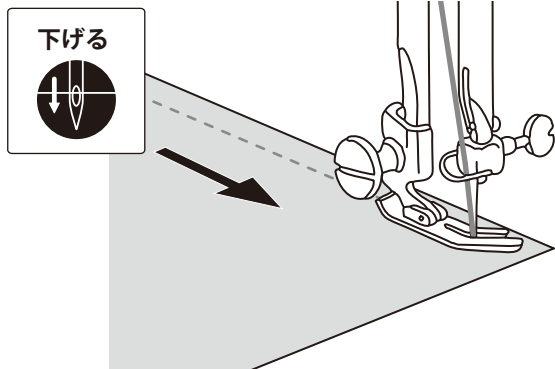
# 縫い方向を変える



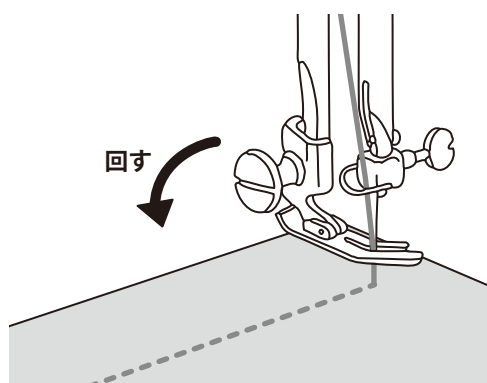
**注意**



・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。



**1** 生地の方角の少し手前でミシンを止め、『はずみ車』を手で回して角まで縫い、針を一番下まで下げます。



**2** 『押え』を上げ、針を軸にして生地を回し縫い方向を変えます。再び、『押え』を下げ縫い始めます。

# 針の取り替えかた



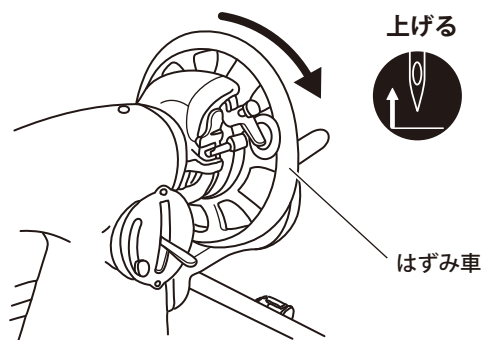
**注意**



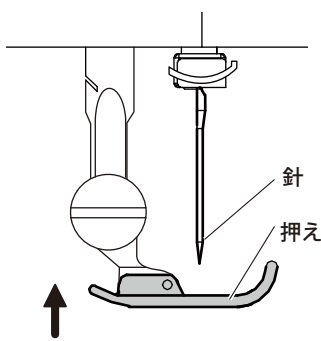
- ・針先や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。
- ・針は平らな面を後ろ向きに付ける。  
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目が出来ず縫えません。
- ・針を付ける際はしっかり締める。  
縫っている際に針が抜け、ケガをする恐れがあります。
- ・部品や工具などでお子様ケガをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。



『ストップモーションネジ』を締めます。



『はずみ車』を手前に回し針を一番上にします。



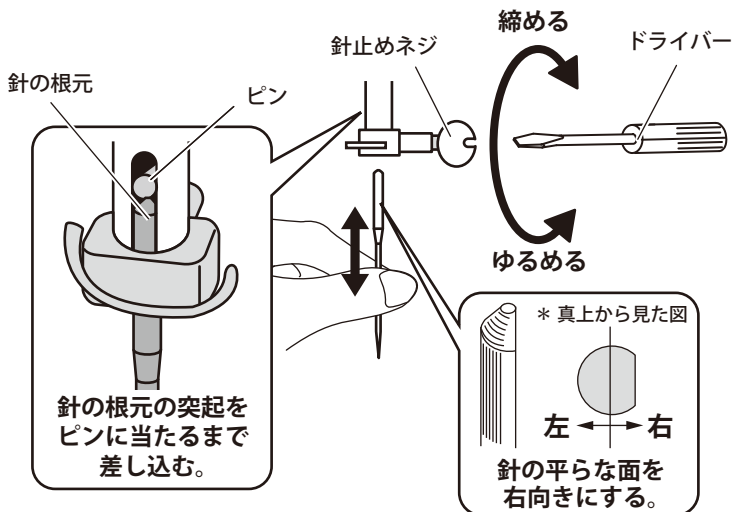
『押え上げレバー』を上げ、『押え』を上げます。



**注意**



・必ず付属の『ドライバー』を使用します。使用中に針が抜け、故障の原因になります。



**3**

はずす：取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

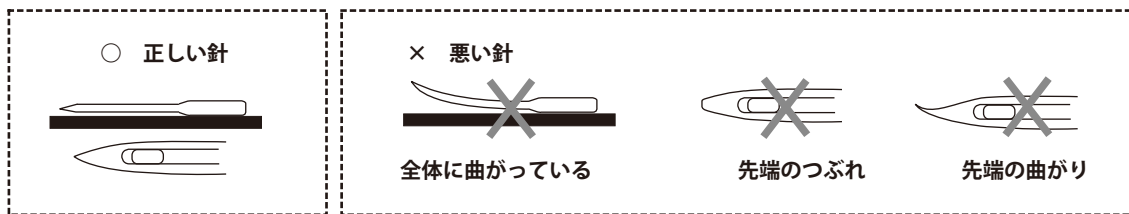
付ける：平らな面を後方（自分から見えないよう）に持ち、針根元が『ピン』に当たるまで差し込み、『針止めネジ』を締めます。

\* 針の交換の際に、押えの下に布をしいて針が誤って押えの穴に落ちないようにします。

## 正しい針の選びかた

- ・曲がった針は使わないでください。
- ・家庭用ミシン針（HA×1）をご使用ください。
- ・目飛び、糸絡みがある場合は、ミシンについている針先が曲がっていたり、つぶれる場合があります。
- ・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板や釜に傷をつけます。

一度新しい針に交換してください。



\* ガラスのような平らな面に置き、針の曲がり具合を確認してください。

## 注油



**警告**



・付属品などの小さな部品は口に入れないでください。

窒息をする恐れがあります。

誤って油を飲んだときは、『鉱物油』であることを伝えて医師に治療をお受けください。



**注意**



・針に注意する。ケガをする恐れがあります。

・部品や工具などでお子様がケガをする恐れがあります。

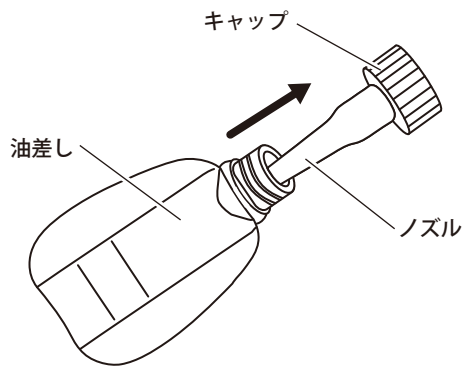
保管には充分ご注意ください。

\* 使用時間が5時間程度を経過したら、矢印箇所に注油を行ってください。

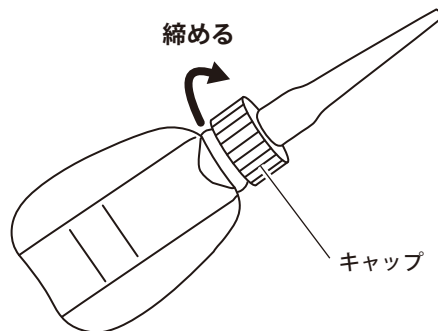
\* 注油の差す量は一滴だけです。差し過ぎると布や糸に油が付着します。

\* 付属の油がなくなったときは、市販のミシン用油をご使用ください。

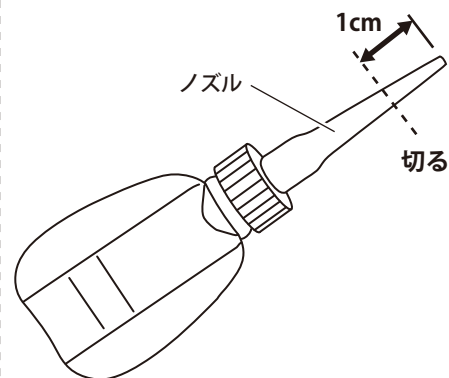
## ● 油差しの使い方



**1** 中の油がこぼれないように『キャップ』を開けて『ノズル』を取り出します。



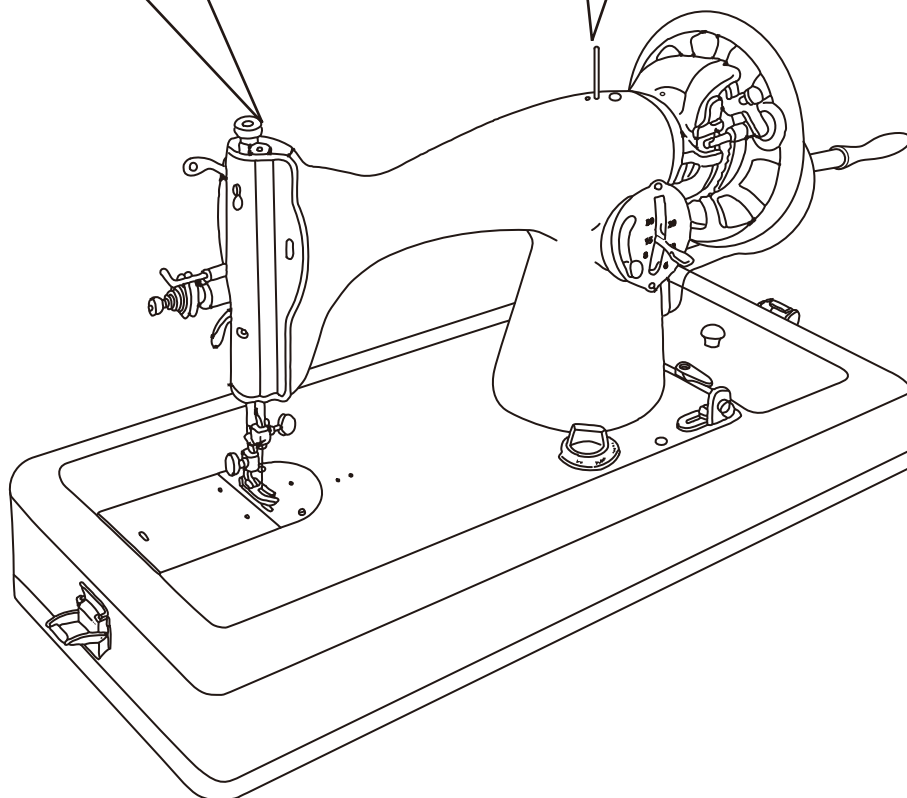
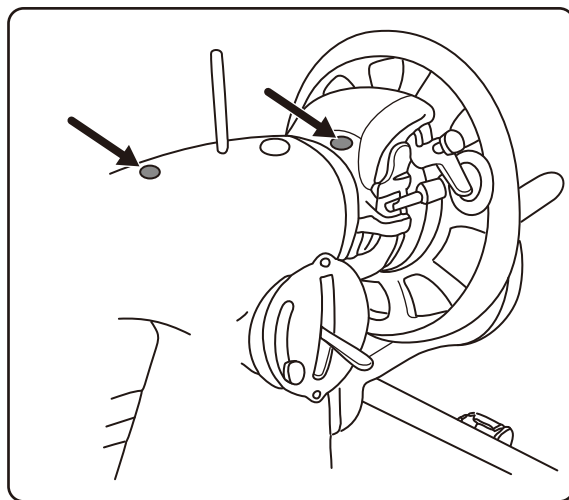
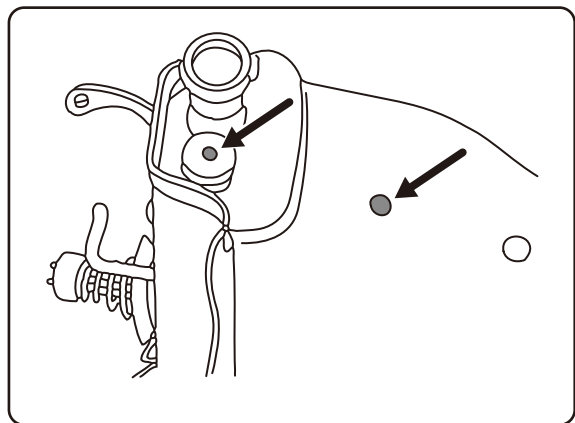
**2** 『ノズル』を入れ替えて『キャップ』を締めます。



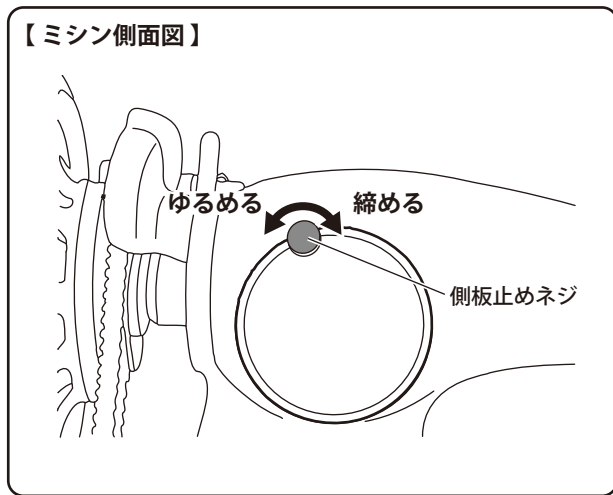
**3** 『ノズル』の先から1cmまで切ります。

図の矢印箇所に注油を行ってください。

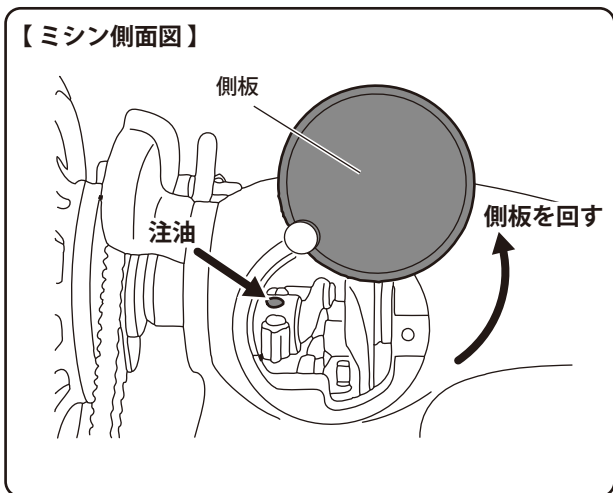
図の矢印箇所に注油を行ってください。



## ● 側板内部の注油



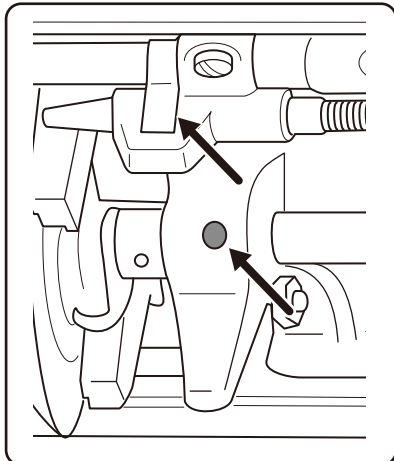
1 『側板止めネジ』をゆるめます。



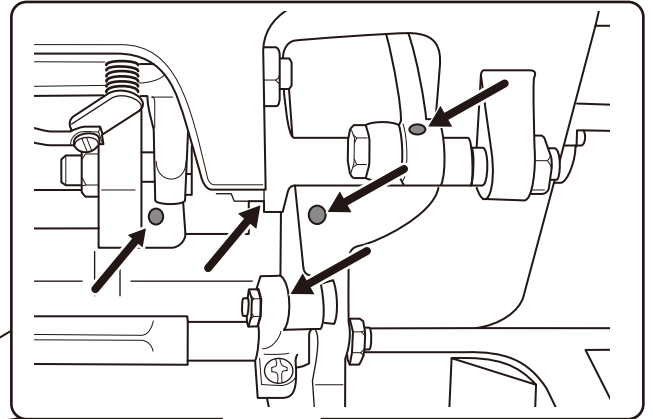
2 『側板』を回して、ミシン内部の部品が見えたら『側板止めネジ』を締め『側板』を固定します。

3 注油の矢印箇所に油を差します。

図の矢印箇所に注油を行ってください。



図の矢印箇所に注油を行ってください。



# カマのそうじ



**注意**

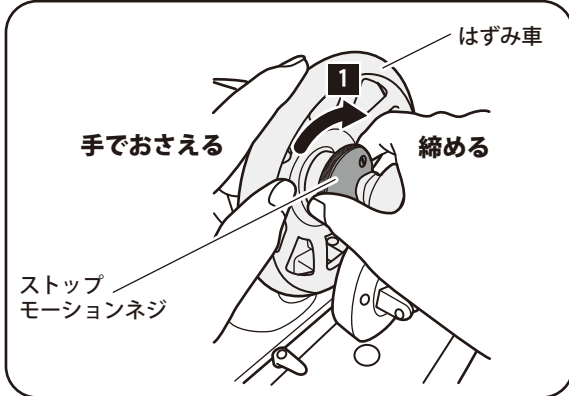


・針に注意する。ケガをする恐れがあります。

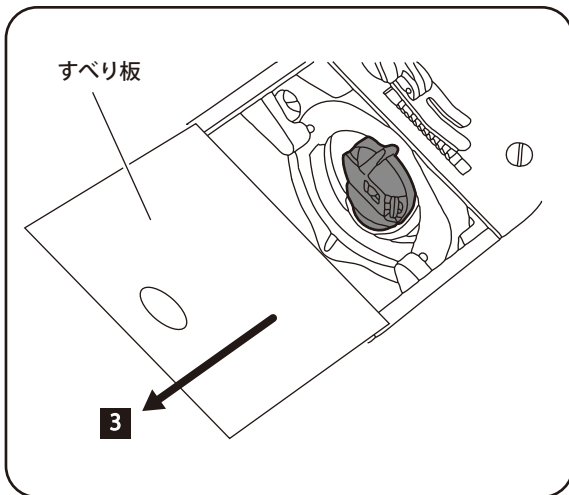
・部品や工具などでお子様がケガをする恐れがあります。

保管には充分ご注意ください。

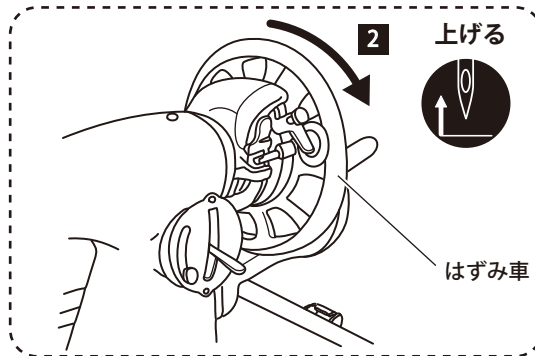
## ● ボビンケースのはずしかた



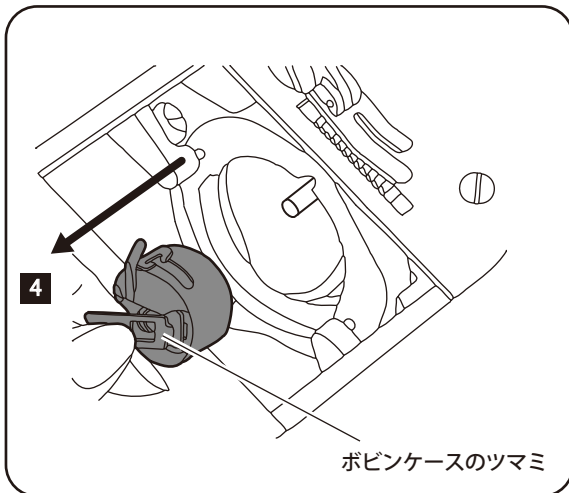
**1** 『ストップモーションネジ』を締めます。



**2** 『はずみ車』を手前に回して、針を上げます。

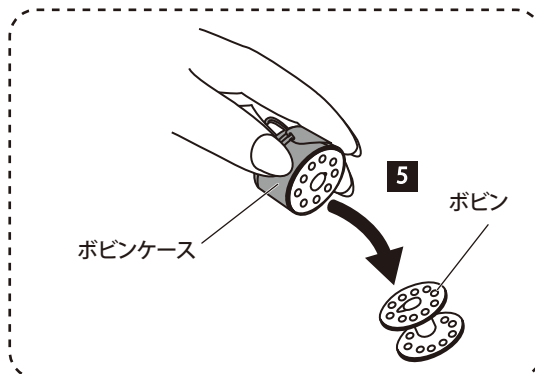


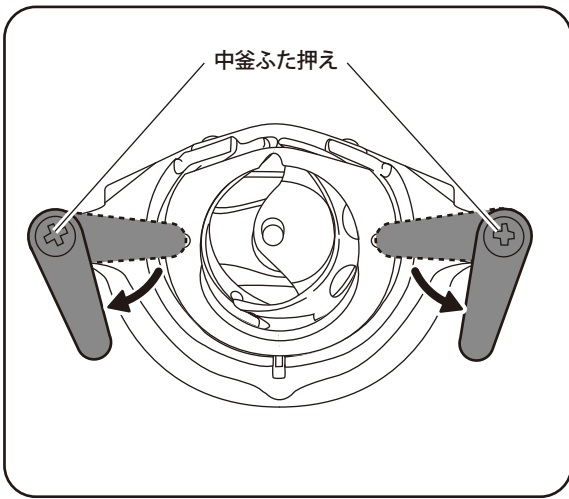
**3** 『すべり板』を手前に引きます。



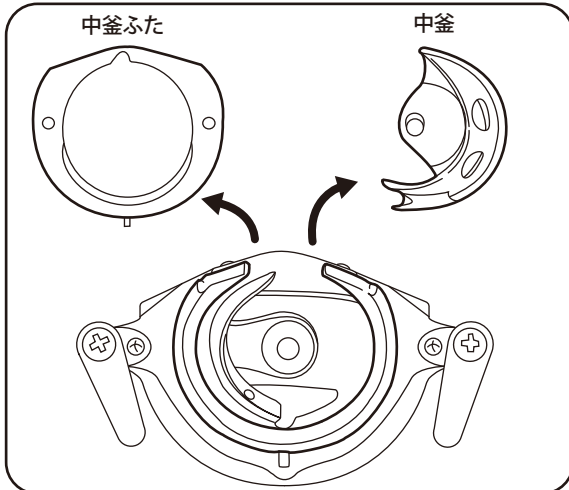
**4** 『ボビンケースのつまみ』を起こし持って取り出します。

**5** 『ボビンケースのつまみ』を元に戻し、『ボビンケース』を持ちボビンを取り出します。

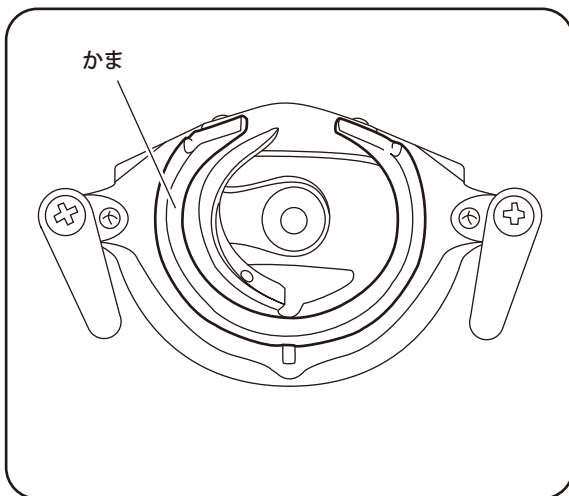




6 『中釜ふた押え』を図のように開きます。



7 『中釜ふた』、『中釜』の順番で取り出します。

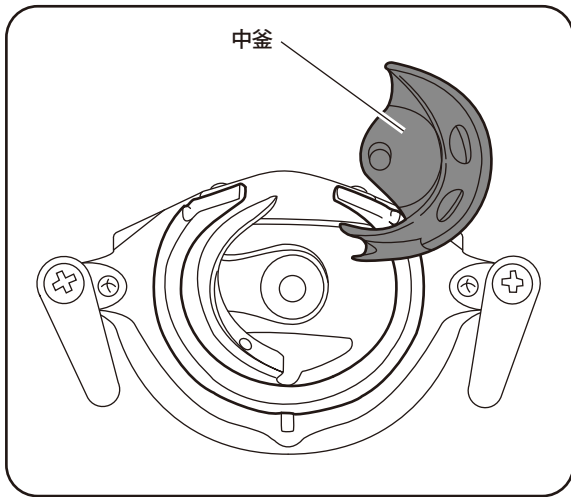


8 『中釜』のまわりの糸くずやほこりを取り除き、図で示した矢印に油を一滴差します。  
(油を差し過ぎないように注意する)

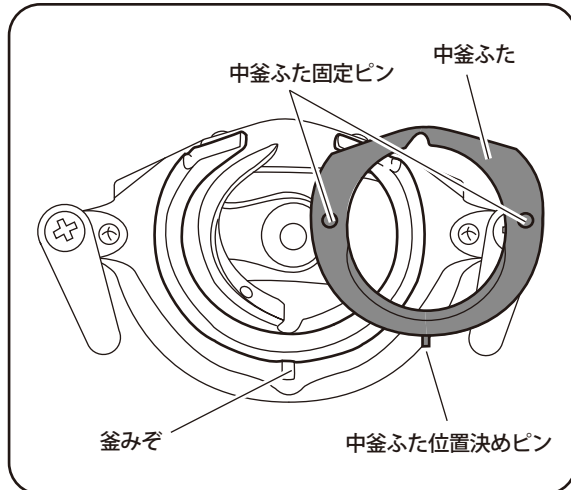


9 『中釜』に傷がある場合は、紙やすりなどで取り除く。  
傷がない場合は、研磨剤（歯磨き粉などでOK）で磨く。  
磨いた後は、さびないように必ずきれいに拭き取ってください。

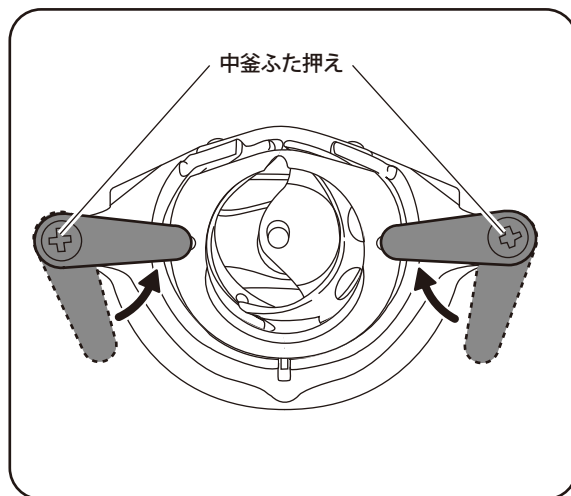




**10** 取り付ける際は、『中釜』の向きに注意して取り付けます。



**11** 『中釜ふた固定ピン』がある方を表にし、『中釜ふた位置決めピン』と『釜みぞ』を合わせて取り付けます。



**12** 『中釜ふた押え』は確実に『中釜ふた固定ピン』の上に乗せ、固定します。

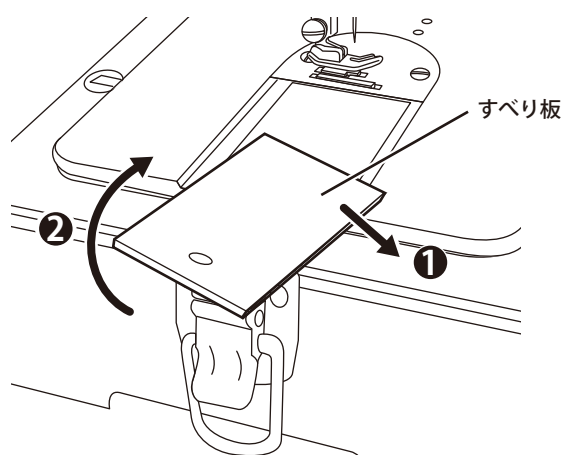


**注意**



・中釜ふた固定ピンの上に乗っていないと使用中に部品がはずれて危険です。  
ケガをする恐れがあります。

● すべり板がはずれてしまった場合…



**1** 『すべり板』裏面の片側だけの金具を本体に挟みます。

**2** 『すべり板』を斜めに回し入れるようにして取り付けます。

## 困ったときは…

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	11～18
	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	24
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	30～32
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	26～27
	糸に結び目やコブがある。	結び目やコブの部分を取り除く。	-
	針や糸が生地に合わせていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	26～27
	種類の異なったボビンを使用している。	種類の合ったボビンを使用する。	6・34
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	-
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	11～15
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	30～32
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	-
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	26～27
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	26～27
	針や糸が生地に合わせていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	16～18
生地がシワになる	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	24
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	11～18
	針や糸が生地に合わせていない。	生地に合った針と糸を使用する。	19

# 仕様

型式： HA-H・II	サイズ： H36×W53×D22cm	重量： 16kg	釜タイプ： 垂直半回転釜
ボビン：鉄ボビン(高さ 11.5×直径 20.5 mm)		使用針： 家庭用ミシン針(HA×1)	

## 修理サービス要領

### ●修理サービスのご相談

- 1.このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2.修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 3.修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係へお申しつけください。

### ●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

### ●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1.取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。  
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。  
イ.保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。  
ロ.浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。  
ハ.ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。  
ニ.ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 2.長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 3.有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

## サービス工場・ご相談先

ミシンについてのご相談は、ご購入店または下記の弊社でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。また、ご購入いただきましたミシンの点検修理なども致します。なお、点検修理の際は有償修理点検と無償修理点検がありますので、詳しくは下記へお問い合わせくださいませ。

※ ミシンを工場へ送付されるときは、このミシンの箱と緩衝材(クッション)をご利用ください。

## お客様相談係

株式会社 アックスヤマザキ ミシンサービス係

 **フリーダイヤル：0120-405-851**

月～金曜日 午前9:00～12:00 午後1:00～5:00 (土曜/日曜/祭日休み)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺3-12-5

TEL. 06-6717-5851 FAX. 06-6741-7875

# ミシン 保証書

型 式	HA-H・II	機 械 番 号		ご購入後には※印欄への記入の有無をご確認下さい。 記入がない時はご購入日、またはお届け日が証明できる伝票等を添付してください。 本書は再発行致しません。 紛失しないように大切に保管して下さい。
※お買い上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体 <b>1年</b>	
※お客様	ご住所	〒 _____ TEL _____ 様方		
	フリガナ ご芳名	_____ 様		
※販売店	住 所	〒 _____ TEL _____		
	店 名	_____ TEL _____		

## 無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間(ご購入の日から1ヵ年間)内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。

## 無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によつたため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。This warranty is valid only in Japan.

## 有償修理について

1. 上記の1.~10.に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額といたします。

## お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載されたの「サービス工場・ご相談先」へお申越してください。

## お客さまへのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従つてこの保証書によってお客さまの権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「サービス工場・ご相談先」等へお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。



【保証責任者】 株式会社 アックス ヤマザキ

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5

TEL : 06-6717-5851